

令和7年度
研 究 集 録
第56集

指定地区研究 — さいたま市—

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

— 学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成 —

埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動状況

- 1 令和7年度事業
- 2 役員及び運営組織・各部等の活動内容
- 3 総会並びに講演会
- 4 研究指定地区研究の歩み一覧表
- 5 地区別授業研究会
《東部・加須市 北部・児玉 南部・鴻巣二市 西部・比企》
- 6 各部活動報告（研修部 広報部 調査研究部 庶務会計部）
- 7 専門委員会報告
- 8 埼玉県発明創意くふう展 入賞作品
- 9 令和7年度全国大会
- 10 令和7年度埼玉県小学校家庭科教育研究会役員名簿

埼玉県連合教育研究会
埼玉県小学校家庭科教育研究会

指定地区研究 —さいたま市—

研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」

— 学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成 —

目 次

あいさつ

埼玉県小学校家庭科教育研究会長	井上 千春	1
さいたま市教育委員会教育長	竹居 秀子	2
さいたま市立与野本町小学校長	小野 圭司	3
さいたま市実施委員長	大島 恵美	3

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由	4
2 研究の全体構造	5

II 研究の内容

1 視点1 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫	
(1) よりよい生活を創り出そうとする	
実践的な態度を育成することを重視した指画計画	6
(2) 他学年や他教科等との系統的・横断的な学びのつながりを	
明確にした指導計画(カリキュラム・マネジメント)	9
2 視点2 主体的・対話的で深い学びを重視する学習過程の工夫	
(1) 「問題を見いだして課題を設定する」学習過程の充実	10
(2) 画一的な教材を使った体験的・実践的な活動を、解決の必要がある	
問題発見・課題解決活動につなげるための工夫	12
3 視点3 児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫	
(1) デジタルとアナログの「ハイブリッドポートフォリオ」の活用	15
(2) デジタルとアナログの「ハイブリッド評価」	15
4 視点4 家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫	
(1) 学校・家庭・地域の人材を活用した工夫ある学習活動の設定	17
(2) 学校・家庭・地域での実践場面の設定	18
5 家庭科に関するアンケート調査結果	
(1) 児童アンケート	20
(2) 教員アンケート	27
6 教員の指導力向上を目指す研修会の実施	29
7 授業の実際	30

III 研究の成果と課題

1 成果	31
2 課題	31

IV おわりに

31

あ い さ つ

埼玉県小学校家庭科教育研究会
会 長 井 上 千 春

埼玉県小学校家庭科教育研究会の研究集録第56集の発行にあたりまして、ご尽力いただきました関係の皆様へ深く感謝申し上げます。また、本研究大会も第56回を迎え、歴史ある埼玉県小学校家庭科教育研究会のたゆみない歩みが、コロナ禍を経てもなお、さらに一歩前進いたしましたことに対して心から御礼申し上げます。

さて、学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」として、家庭科で育成を目指す資質・能力が3つの柱で示されています。その2つめの目標には、日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力・判断力・表現等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことが明確にされています。

本研究会では研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」と設定し、副題を「学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成」といたしました。そして、研究の視点を①実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫②主体的・対話的で深い学びを重視する学習過程の工夫③児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫④家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫という4つの視点から研究を進めました。本日授業公開をする6年生は、これまで学習してきた知識・技能を活かして、さらに栄養バランスや旬、彩りなどを考えながら献立を工夫する場面を取り上げました。また、5年生は「ミシンでソーイング」の題材を通して、生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、問題を見出だして課題を設定する授業を行いました。5年生については、紙面発表とさせていただいております。詳細は、埼玉県小学校家庭科教育研究会HP上に指導案、ワークシートを掲載しておりますのでご覧ください。さいたま市を中心に進められた今回の研究を、各学校の授業改善につなげていただけたら幸いです。

本日ここに、研究の成果を発表させていただく機会を得ることができました会場校でありますさいたま市立与野本町小学校 小野 圭司校長先生をはじめ教職員の皆様、実施委員長 大島 恵美校長先生を中心としたさいたま市の先生方並びに関係の皆様への御協力と御支援に心から感謝申し上げます。

結びに、これまで御指導・御支援いただきました文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 熊谷有紀子先生、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、県立総合教育センター、埼玉県連合教育研究会、埼玉県産業教育振興会、日本教育公務員弘済会埼玉支部をはじめ、関係諸機関の皆様へ深く感謝申し上げます。

(川口市立戸塚南小学校長)

あいさつ

さいたま市教育委員会
教育長 竹居 秀子

この度、令和7年度第56回埼玉県小学校家庭科教育研究会が「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成～」を研究主題とし、本市において盛大に開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。また、さいたま市を会場としてこのような発表の機会をいただいたことに感謝申し上げます。

本研究主題は、家庭科教育が目指す「生活者としての自立」と「持続可能な社会の担い手の育成」という視点を的確に捉えたものであり、子どもたちが自らの生活を見つめ、よりよくしようとする力を育むことの重要性を示しています。子どもたちがこれまでの生活経験や他教科での学び、既習内容を生かしながら、「生活に係る見方・考え方」を働かせ、自分の考えを広げたり深めたりする姿や、家族の一員として「課題を解決してよりよく生活したい」という思いをもって学習する姿は、家庭科ならではの学びの価値を体現するものです。

本市では、研究主題に迫るため、「日常生活の中から問題を見出して課題を設定する」学習過程の充実に重点を置いた授業実践を、令和5年度より継続して研究してまいりました。これまでの実践を通して、子どもたち自身が生活をよりよくしたいという思いや願いを見出しながら、主体的に課題を解決しようとする姿が見られるようになってきました。このように、身近な生活の課題を自分事としてとらえ、他者と協働しながら探究的に学ぶことこそが、生涯にわたり自身の生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度へとつながるものと考えます。研究会をはじめ、家庭科担当の先生方を中心に、このような子どもたちの学びを支える先生方の御尽力に改めて敬意を表するとともに、家庭科教育の可能性を広げる実践が各地でさらに深まることを願っております。

御参会の先生方におかれましては、本研究の内容を各校に持ち帰り、自校の実態に即して、今後の教育活動に生かしていただきますことを御期待申し上げます。また、本市においても引き続き、小学校家庭科教育の充実に図ってまいりたいと思います。

結びに、本教育研究会を開催するにあたり、御支援賜りました指導者の皆様に心より御礼申し上げますとともに、埼玉県小学校家庭科教育研究会の益々の御発展と会員の皆様及び御参会の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

あ い さ つ

さいたま市立与野本町小学校長 小野 圭司

本校は、今年度開校154周年を迎える歴史と伝統のある学校です。郷土資料館や地域交流室などとの複合施設であり、恵まれた教育環境の中、「ニコニコ しっかり 美しく」の「本町の心」を大切にしたい教育活動を進めております。

本校では、本会のこれまでの研究成果に学び、研究主題である「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」のもと、よりよい授業実践となるよう研究を積み重ねてまいりました。現在は、授業での学習内容と自身の生活の中での学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する力を、児童に育むことができるよう取り組んでいるところです。これは、事前の実態調査の結果を見ると、第5学年のゆでる調理や第6学年のいためる調理について学習し食事作りへの意欲の向上が見られる一方、栄養バランスや旬、彩り、食べる相手を意識すること等まで考えた献立作りへの意欲に課題があるためです。そのため、授業での学習内容と自身の生活の中での学びを一層つないでいくことが大変重要であると考えております。今後も本校教員の授業力を一層向上させ、児童に家庭や地域との関わりを大切にする豊かな心と実践力を育んでまいります。

結びに、本校を会場として第56回研究協議会を開催できますとともに、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、埼玉県小学校家庭科教育研究会、さいたま市教育研究会家庭科部の皆様に懇切丁寧なご指導をいただきましたことに心より感謝を申し上げます。

あ い さ つ

さいたま市地区 実施委員長 大島 恵美

今年度は新学習指導要領の折り返しとなる6年目を迎え、各校において体験的な活動の充実が本格的に図られ、創意工夫に満ちた実践が展開されてまいりました。令和6年度の北部（秩父）地区における第55回研究協議会を受け、研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」、副題を「学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成」と定め、研究を推進してまいりました。

研究の視点としては、以下の4点、① 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫 ② 主体的・対話的で深い学びを重視する学習過程の工夫 ③ 児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫 ④ 家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫を掲げました。これらを基盤とし、先行する研究授業の成果を踏まえながら、誰もが実践可能な指導方法の確立を目指して研究を重ねてまいりました。教科担任制の広がりに伴う家庭科経験者の減少や、カリキュラム・マネジメントの推進における研修の在り方など、様々な困難もございましたが、本日、さいたま市立与野本町小学校にてその成果を発表できますことを、心より嬉しく思います。

結びに、本研究の推進にあたり、埼玉県教育委員会ならびにさいたま市教育委員会の皆様より多大なるご指導・ご支援を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。また、さいたま市立与野本町小学校の小野圭司校長先生をはじめ、教職員の皆様に温かいご支援とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます、ここにごあいさつとさせていただきます。

（さいたま市立上小小学校長）

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

**研究主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
～学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成～**

さいたま市は、埼玉県の県央部に位置する県庁所在地であり、人口は約135.4万人と県内最多である。また、政令指定都市の一つでもあり、10の区で構成されている。中でも浦和区は、県庁所在地を有する県の政治・行政の中心となる地域である。しかしながら、東京都心部に直結するJR東日本沿線に人口が集中する傾向があり、鉄道沿線の中心部とその他の地域とでは、児童生徒数の差や実態から学校規模・課題が異なり、市内の104校で共通して取り組める研究内容を検討していくことが難しい。

こうした中、さいたま市教育研究会小学校家庭科専門部（以下さいたま市）では、令和5年度から小学校家庭科の目標（2）「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。」の具現化を目指している。特に、「問題を見いだして課題を設定する」学習過程を充実させることを重点として研究に取り組んでいる。

（1）児童の実態と指導上の課題

アンケートの結果から、「家庭科の授業は好き（得意）ですか」の質問に対し約86%の児童が肯定的な回答をしており、家庭科の授業に好意的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。学習内容に関する質問では、調理に関する内容に興味・関心が高いこと、また手縫いやミシンを用いた製作に苦手意識がある児童が多いことが分かる。調理の学習内容では、実習に関わる内容に興味・関心が高いが、栄養バランスを意識した献立が立てられるようになりたいと考えている児童も多い。調理実習で行った調理を家庭実践している割合も高いため、今後も学習内容の充実を図り、児童の主体的な学びを引き出すことで、家庭実践につなげ、目指す児童像の具現化を図りたい。

（2）家庭科で育みたい児童の姿

本研究では、小学校家庭科の目標（2）「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。」を具現化するために、「問題を見いだして課題を設定する」学習過程を充実させることに重点を置いている。

指導においては、各題材で育成を目指す資質・能力を踏まえ、問題を見いだして「題材を貫く課題」を設定し、解決していく学習を展開する。その中で、児童が「生活に係る見方・考え方」を働かせ、自分の考えを広げたり、深めたりするとともに、自分自身や家族または身近な地域での課題を解決することを学習のゴールとし、「課題を解決してよりよく生活したい」という思いを、学習を進める原動力とすることで、目指す児童像である「学習内容と自身の生活の中での『学び』をつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童」を育成したい。

2 研究の全体構造

家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを実現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家庭や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

**研究主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
～学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成～**

目指す児童像 学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童

<学びをつなぐ>

- ・家庭科の学習や他教科等の学び、既習内容、生活経験等をいかす子
- ・「生活に係る見方・考え方」を働かせ、自分の考えを広げたり、深めたりする子

<生活をよりよくしようと工夫し実践する>

- ・家族の一員として「課題を解決してよりよく生活したい」という思いをもって学習する子
- ・思考（試行）・工夫を繰り返して家庭実践する子

視点1

実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫

視点2

主体的・対話的で深い学びを重視する学習過程の工夫

視点3

児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫

視点4

家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫

教員の指導力向上を目指す研修の充実

Ⅱ 研究の内容

1 視点1 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫

(1) 手立て①よりよい生活を創り出そうとする実践的な態度を育成することを重視した指導計画

家庭科の学習を通して実践的な態度を育むためには、各題材で獲得した知識・技能を、児童が主体的に活用できるような指導計画を工夫する必要がある。本市では、題材の導入時に児童の身近な生活に必要感の感じられる課題を設定し、解決していくことで、学習内容を自分事として考えながら取り組んでいけるような指導計画や学習過程を工夫している（視点2と連携）。

題材の指導計画においては、「身近な生活場面からの課題設定」、「協働的な学習による解決・実践」「自己及び他者からの評価」を取り入れるとともに、毎時間の学習における「振り返り」を重視し、ポートフォリオを活用して指導に生かす学習展開を意識して実践している。これにより、児童が実践意欲を高めながら学習を進めることができると考える。

資料1 5年「ミシンで楽しくソーイング」指導計画 (R5市教研修大会研究授業指導案より抜粋)

題材の指導と評価の計画 (11時間扱い)

- | | | | |
|-----------------------|-----|-------------------|-----|
| ・小題材1 布製品のよさを知ろう (本時) | 1時間 | ・小題材2 ミシンの使い方を知ろう | 1時間 |
| ・小題材3 練習布で縫ってみよう | 2時間 | ・小題材4 エプロンを製作しよう | 6時間 |
| ・小題材5 実践報告会をしよう | 1時間 | | |

時	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を豊かにするための身の回りの布製品や手縫い・ミシン縫いについて、問題を見いだして課題を設定する。 ・布製品のよさについて考える。 ・ミシン縫いのよさを探る。 ・<u>2種類のミニエプロンを見て、縫い方や布の始末等を比較し、個人の課題を設定する。</u> ・課題を共有し、学習計画を立てる。 		①生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について問題を見いだして課題を設定している。(ワークシート・観察)	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ミシンの安全な取扱い、基本的な使い方について理解し、適切に直線縫いを行うことができる。 ・ミシンの安全な使い方について考え、話し合う。 ・ミシンの準備、片付けの仕方をタブレットで調べる。 ・空踏みや空縫いを行い、ミシンの動き・速さや布の進む方向を確認し合い、実際の直線縫いを行うことでミシンの操作を知る。 ・直線縫いをする。 	③ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解しているとともに適切にできる。(行動観察・試し布) ④用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。(行動観察)		

3 4	<p>○布の端の始末を学び、練習布を用いて縫う練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端の始末をしているものとしていないものを比較し、必要性について考えて理解し、二つ折り・三つ折りができるようにする。 ・布がほつれないようにするための返し縫いの仕方を考えて理解し、できるようにする。 	<p>①製作に必要な手順を理解している。(行動観察)</p> <p>③ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解しているとともに適切にできる。(行動観察)</p> <p>④用具の安全な取扱いについて理解しているとともに適切にできる。(行動観察)</p>	<p>③生活を豊かにするための布製品の製作について、実践を評価したり、改善したりしている。(行動観察・ワークシート)</p> <p>④生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。(ワークシート)</p>	<p>①生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(行動観察・ポートフォリオ)</p>
5 6 7 8 9 10	<p>○エプロンの製作について考え、問題を見いだして課題を設定しながら工夫して製作計画を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことを活用し、計画を立てる。 <p>○製作に必要な布の大きさが分かり、手順について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な布の大きさや材料を考える。 <p>○製作計画を基に縫い方や手順を考え、工夫して製作することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作計画に沿って学んだ知識・技能を生かして製作する。 ・<u>グループで製作に取り組み、意見を出し合いながら、よりよい布製品が完成できるようにする。</u> 	<p>①製作に必要な材料や手順が分かる。(ワークシート)</p> <p>②製作する物の目的に応じて形や大きさを決める必要があることが分かり製作計画について理解している。</p> <p>③ミシン縫いによる目的に応じた縫い方(返し縫い、角の縫い方)について理解しているとともに適切にできる。(相互評価・行動観察・製作物)</p>	<p>②生活を豊かにするための布を用いた製品の製作について計画を考え工夫している。(行動観察・ワークシート)</p> <p>③布を用いた布製品の製作について、実践を評価したり、改善したりしている。(行動観察・ワークシート)</p>	<p>②生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作に関する課題の解決に向けた、一連の活動を振り返って改善しようとしている。(行動観察・ポートフォリオ)</p>
11	<p>○エプロンの製作について、実践を評価したり、改善したりして、製作に対する意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>自分や家族が使ってみてどのように役立ったか、自分の気持ちや感想、作品のよい点等を話し合う。</u> ・<u>友達の発表やコメントから自分の作品を評価したり、改善したりする。</u> <p>○布を用いた製作物について、生活を工夫し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習を振り返り、何ができるようになったか、どう頑張ったか、これからどう生活に生かしていきたいかを共有する。 		<p>④布を用いた布製品の製作についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。(ワークシート)</p>	<p>③生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について工夫し、実践しようとしている。(行動観察・ポートフォリオ)</p>

題材の指導計画においては、「身近な生活場面からの課題設定」、「協働的な学習による解決・実践」「自己及び他者からの評価」(資料1「題材の指導計画」の「学習活動」下線部)を取り入れるとともに、毎時間の学習における「振り返り」を重視し、ポートフォリオを活用して指導に生かす学習展開を意識して実践している。これにより、児童が実践意欲を高めながら学習を進めることができるようになる。

資料2 さいたま市立小学校家庭科（第5学年）指導計画の抜粋

4 ・ 5	クッキング はじめの一步 <8時間> 【B(2)ア (7)(イ)(カ)(ク)(イ)】		<p>○調理に必要な材料の分量や手順、調理計画について理解する。</p> <p>○ゆで野菜サラダの調理計画について考え、工夫することができる。</p> <p>・調理計画に基づき、調理器具を安全に使用して、ゆでる調理を行う。</p> <p>・調理室探検や調理実習を通して、調理の手順と調理用具、後片付けの仕方、安全で衛生的な調理についてまとめる。</p> <p>・調理実験を通して、ゆでる調理の方法や特性をまとめる。</p>	<p>・調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。</p> <p>・ゆで野菜サラダを作るための調理計画や調理の仕方について問題を見出して課題を設定している。</p> <p>・ゆでる野菜サラダの調理計画について考え、工夫している。</p>	<p>・家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。</p>	<p>◎小5「食べて元気に」、小6「できることを増やしてクッキング」、「こんだてを工夫して」、中学校「健康・安全で豊かな食生活（肉・野菜・魚の調理）」につながる。小学校では、2学年間の学習を通して1食分の食事が整えられるようにする。</p> <p>◎調理の基礎では、調理操作を繰り返し学習できるように題材を配列し、材料を変えたり調理法を組み合わせた学習などとして、平易なものから段階的に題材を発展させながら定着を図ることが大切である。</p> <p>・ゆでる材料として野菜を扱う。</p> <p>◎「ゆでる」調理が、第5学年のみそ汁、第6学年の「いためる」調理、中学校での加熱調理「煮る、焼く、蒸す」につながるよう、実習や実験を交えながら、ゆでる調理の特性と材料に応じたゆで方について理解できるようにする。</p> <p>・調理実験の前後や、調理実習の後に、気付いたことをワークシートに書く活動や、それを基にペアやグループの中で発表したり、話し合ったりする学習活動（言語活動）を位置付け、効果的な学習となるようにする。</p> <p>◇計量 ◇材料の洗い方 ◇盛り付け ◇後片付けの仕方 ◇安全で衛生的な取扱い（加熱調理器具、包丁）</p> <p>◇ゆでる調理</p> <p>・ジャガイモを扱う際には、ジャガイモの芽や緑化部分は食中毒を起こす成分が含まれることについても触れ、安全に調理できるようにする。</p> <p>・洗い方や切り方を師範する場合には、実物投影机やタブレット端末等の情報機器を活用して、手元がよく見えるように配慮する。</p> <p>・内容項目C(2)アとの関連を図り、洗剤や水の使い方、材料を無駄なく使う方法について扱うことも考えられる。</p> <p>□理 水のすかたと温度（小4） □算 量と測定（小2・小3） □体 けがの防止（小5） □道B 礼儀 ◆「調理をしよう」「包丁を使って材料を切るう」</p>
			<p>○材料に適したゆで方を理解し、ゆで野菜サラダを作ることができる。</p> <p>・ゆで野菜サラダを作る。</p> <p>・学習を振り返る。</p>	<p>・調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱調理器具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切に使用できる。</p> <p>・材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>・材料に適したゆで方を理解しているとともに、適切にできる。</p>	<p>・家族の一員として、生活をよりよくしようと、ゆでる調理の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>・ゆでる調理の仕方について工夫し、実践しようとしている。</p>	

また、本市では、資料2のような指導計画とともに、小・中5年間の家庭科学習で習得する調理法等を見通すことのできる「題材配列表」（資料3）を作成し活用している。指導計画と合わせ、効果的な接続のため指導内容等を確認することができる。

資料3 「題材配列表」

※「アイコン」：国連本部のウェブページに掲載されている17の目標のアイコン

小・中学校5年間を見通した「食生活」に関する題材配列表														
	題材	実習題材	食材					調理法		知識	安全・衛生	食文化	アイコン	
			米	野菜	いも類	卵	魚や肉	その他	切り方					加熱方法
小学校	第5学年	クッキングはじめの一步	ゆでじゃがいも 野菜のおひたし ゆで野菜サラダ	青菜 人参 キャベツ	じゃがいも	卵		お茶	輪切り 短冊切り	ゆでる	手洗い 点火、火加減 包丁、まな板 野菜の洗い方 ガスの元栓			
		食べて元気に	ご飯 みそ汁	米	大豆 ねぎ		にぼし	油揚げ みそ	いちょう切り 小口切り 短冊切り	炊飯 煮る	五大栄養素 3つの食品群とその働き	日本の伝統的な 日常食 だし		
	第6学年	できることを増やしてクッキング	朝食に合う炒め料理 ※野菜炒め ※スクランブルエッグ	人参 ピーマン キャベツ		卵		ウインナー 油		炒める	調理計画 朝食 主食 主菜・副菜	フライパン		
		こんだてを工夫して	※ジャーマンポテト ※野菜のパセリ ※目玉焼き 等	人参 アスパラ ガス	じゃがいも			ベーコン	ジャガイモの皮むき	炒める ゆでる	1食分の献立作成 栄養バランス 配膳、盛り付け	包丁 環境に配慮した調理の仕方	食事のマナー 食事の挨拶	
中学校	健康と食生活									食事の役割 中学生に必要な栄養の特徴 健康によい食習慣 水のはたらき、食物繊維 栄養素の種類と働き 食事摂取基準 食品の栄養的特質				
	食品と調理 生鮮食品の選択と保存									用途に応じた食品の選択（目的、栄養、価格、調理能力、環境、アレルギー） 食品の安全と衛生に留意した調理	食品の安全と衛生に留意した管理 調理用具等の安全と衛生に留意した管理			

(2) 手立て②他学年や他教科との系統的・横断的な学びのつながりを明確にした指導計画（カリキュラム・マネジメント）

本市では、家庭科の年間指導計画内に、他学年や他教科との系統的、横断的な学習の関連を明記することはもとより、地域、児童の実態に即して義務教育9年間を見通したカリキュラム・マネジメントを実践・充実していただけるよう、各学校で「カリマネマップ」を作成している。カリマネマップ（資料4）をもとに、教職員が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくり、家庭科の学習を通して学校全体の教育活動の質の向上を図っている。

資料4 カリマネマップの例

令和7年度 さいたま市立上落合小学校 デザインマップ（6年）													
学校教育目標	あかるく なかよく たくましく												
目指す学校像	児童が生き生きと活動し、笑顔と活気があふれる学校 ○児童一人ひとりを大切にし規律ある学校 ○教師が誇りと使命感をもって働く学校 ○教育環境が整い、安心安全で、きれいな学校 ○保護者や地域から信頼されともに歩む学校												
本年度の重点目標	1 確かな学力の定着を図る教育活動の推進 2 コミュニティスクールを核とした、保護者や地域に信頼される学校づくりの推進及びフレッシュ改修工事下における適正な教育活動の実現 3 メール等による迅速な情報発信と校務の電子化 4 教員の指導力向上とアクティブ・ラーニング室授業の推進												
育てたい資質・能力													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間総数
主な学校行事等	始業式 入学式	30日開学 球技大会	24・25日 修学旅行				運動会 つばほの丘					卒業式 修了式	
書写	はじめの学習	文字の大きさと配列	復習の学習	文字の組み立て方		文字の大きさと配列、点画のつながり						書いて伝え合おう	35
社会	憲法とわたしたちの暮らし	わたしたちの暮らしを支える政治	人々の願いの今昔	大憲に学ぶ 憲法		武士の政治が解る	憲法の政治と人々の暮らし				日本と世界	地球規模の課題の解決と国際協力	105
算数	※私と算数 ※学びとびら 対称な図形	分数÷分数 ※分数の倍	比	算数で読みとこう		拡大図と縮図 データの調べ方 円の面積	角柱と円柱の体積 比よその面積と体積	比例と反比例	並べ方と組み合わせ方 ※考えろ力をのばそう ※算数で読みとこう データを使おう	算数のしあげ		算数の算旅行 プログラミングを体 かたちであそぼう	175
理科	地球と私たちの暮らし つなぐ力を 見つけよう1	水溶液の性質とはたらき	植物のからだのはたらき			動物のからだのはたらき	生き物どうしの関わり	てのはたらきとしくみ	大地のつくり	変わり続ける大地	電気と私たちの暮らし	地球に生きる	105
国語	言葉の広場① 主語と述語の対照をかく 漢字の広場① 三文字以上の漢語の構成 図に表して整理しよう 言葉の文化① 春はあけぼの	文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをたよらそう 立場を明確にして主張しよう 文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをたよらそう 言葉の文化② 雨 言葉の広場② 資料による言葉の調べ	漢字の広場② 漢数の意味をもつ漢字 五年生で学んだ漢字 漢字が解らばあたる4領域について調べよう 漢数の文化② 雨 漢字が解らばあたる4領域について調べよう 漢数の広場② ひらがなとかなの調音	自分の体験や思い、文意を表現しよう 会話のつづきをつけよう 漢字の広場③ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	相手の思いや考えを聞きとらよう 漢字の広場④ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	自分の体験や思い、文意を表現しよう 会話のつづきをつけよう 漢字の広場③ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	自分の体験や思い、文意を表現しよう 会話のつづきをつけよう 漢字の広場③ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	自分の体験や思い、文意を表現しよう 会話のつづきをつけよう 漢字の広場③ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	漢字の広場④ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	漢字の広場④ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	伝えたいことを明確にして書こう 言葉について調べよう 漢字の広場④ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	伝記を読んで、生き方について自分の考えをたよらそう 言葉の広場④ 漢字の使い分け 五年生で学んだ漢字 ひらがなとかなの調音 フアンターを探め、日本の文化をたよらそう	140
総合	上落合PR大作戦												26
家庭	生活時間をマネジメント できることを増やして クッキング	クリーン作戦で快適に 衣服の手入れで 快適に	すずしい住まいで 快適に			ソニーで 生活を豊かに		こんどてを工夫して			共に生きる地域での生活	持続可能な社会を生きる	55
音楽	巻頭教材 スキルアップ	にっぽんのうた 指原のひびき	アンサンブルの みりよく	にっぽんのうた せんりつひびき 会い		音楽のときどき	豊かな表現				音のスケッチ ジャズとクラシック の出会い	思いをこめた表現	50
図工	わたしのお気に入りの場所	みんなの指から ゆるみで ファンタジーワールド	見て感じて わたしの表現 金魚とで チャレンジ	いつもの学校が家身 すかして書か わたしの光		不思議なひら むこうは	紙の広場 プレゼント				葉の連 わたしはデザイナー 121の方で		50
体育	体づくしの運動 バスケットボール	体の動きを高める運動	短距離走 水泳運動			表現運動	マント運動				障害物運動	チーボール	90
G・S	Let's start Global	Let's Make Profile Cards about	You are a SATAMA Jr.	Our Dream Town		Summer Memories Diary	My Favorite Story	Where do you want to go for	Where do you want to go for	Letter for an ALT at JHS	My Dream		105
道徳	自分の長所をひたす 広い心をもて 責任ある行動をする	夢の実現に向けて 困難の中で挑戦する 友情を深める	正義の実現のために 相手の思いやる 国や郷土を愛する 権利を守る大切さ	ぐるり見回りを見逃さ ば 感謝の心		友達と助け合って 愛護の一員として 探検隊をもて	すずんで仲間の役にたつ 自然を愛する大切さ に 誇りに生きる みんなで協力しよう	感謝の気持ちをもって 行動しよう 誰か一人を助けて みんなが一つになる ために 支え合おう	感謝の気持ちをもって 行動しよう 誰か一人を助けて みんなが一つになる ために 支え合おう	本道の「自由」とは 一瞬一瞬を かけがえのない命 に 感謝する美しさ	世界の平和を願って 命のつながり 大切な家族への思い 支え合おう	たがいに信頼し合っ て 権利と義務	35
学級活動	学年や学校における 生活づくりへの参画 6年生になって	学年や学校における 生活づくりへの参画 最上級としての 役割	学年や学校における 生活づくりへの参画 友達との信頼関係 手になろう	学年や学校における 生活づくりへの参画 責任を有責義に こなそう		学年や学校における 生活づくりへの参画 身の守り方	学年や学校における 生活づくりへの参画 進んで取り組む 自主学習	学年や学校における 生活づくりへの参画 自己のよき成長	学年や学校における 生活づくりへの参画 健康と生活のリズム	学年や学校における 生活づくりへの参画 もうすぐ中学生	学年や学校における 生活づくりへの参画	学年や学校における 生活づくりへの参画	35

2 視点2 主体的・対話的で深い学びを重視する学習過程の工夫

(1) 手立て①「問題を見いだして課題を設定する」学習過程の充実

さいたま市では、小学校家庭科の目標(2)「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。」を実現するために、「問題を見いだして課題を設定する」学習過程を充実させることに重点をおいて取り組んでいる。生活の課題発見の場面では、「子どもが生活の中から問題を見いだすための手立て」と「見いだした問題を課題の設定につなげるための手立て」が必要である。

【実践① 教員による課題の提示型（ミニエプロンで課題を発見）】

第5学年「ミシンでソーイング」の学習では、生活の課題発見の場面において、児童が日常生活に不便さを感じたり、より生活を豊かにすることを考えたりする機会が少ないことから導入を工夫した。教師が見本用のミニエプロンを2種類作成し、一つは縫い目が真っ直ぐでひも通しの部分などが正しく縫えているもの、もう一つは縫い目が曲がっていて縫う場所を間違えているものを用意し、両者を比較させた。児童は対話を通してエプロン製作に向けて気を付けたいことや大切にしたいことなどを考え、各自の「ねがい」をタブレットにまとめた。それらをクラス全体で共有しながら題材を貫く課題を設定することで、主体的に学習に取り組めるようにした。

〈本時のねらい〉生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、問題を見いだして課題を設定することができる。【思考・判断・表現】 (1/11時間)

学習活動	☆教師の支援と指導上の留意点
<p>1 布製品のよさや背景について考える。</p>  <p>世の中にある素材って…?</p> <p>ビニール袋が破けてしまったという教師の体験から身近に様々な素材があることにふれ、布製品のよさにつなげていた。</p>	<p>☆ビニール袋が破けてしまったという話から、素材の種類とよさを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丈夫さ・便利(袋)・清潔(洗える)・リメイク ・物や大きさに合わせて作ることができる 等 <p>☆実物(ミシン)を見せ、ミシンで縫うよさを確認する一方でミシンを使ったから必ず綺麗に縫えるわけではないことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなものを作れる・短い時間で作れる ・縫い目がきれい
<p>2 ミシン縫いのよさについて考える。</p> <p>3 本時のめあてを確認し、学習の流れをつかむ。</p>	<p>自分だけのエプロンを作るための「課題」を立てよう</p>
<p>4 2種類のミニエプロンを観察し、製作するときに気を付けたい点等をグループで考え、全体に共有する。</p>	<p>☆児童に気付かせたいポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返し縫いをしていない ・まっすぐ縫えていない ・三つ折りの端から縫い目が外れている・縫い目がずれてはみだ  <p>ミニエプロンの見本</p>

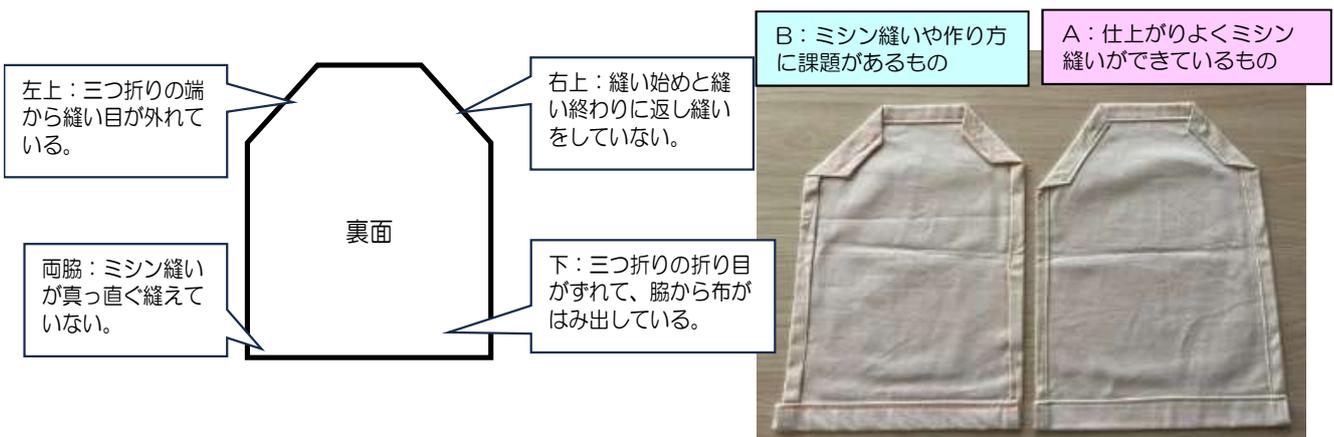
<p>5 どのようなエプロンを製作したいかを考え、全体で共有し、題材を貫く課題を設定する。</p>	<p>している。</p> <p>☆児童個人の課題に使われている言葉をキーワードとして、全体の課題を設定する。その際、ムーブノートの集計機能を利用する。※R6年度からは、オクリンクプラスの集計機能を活用した。</p>
<p>6 学習計画を立てる。</p>	<p>①（布製品）のよさを知ろう！ ②（ミシンの使い方）を知ろう！ ③④（練習布）で縫ってみよう！ ⑤～⑩（エプロン）を製作しよう！ ⑪（実践報告会）をしよう！</p>
<p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>☆ポートフォリオに振り返りを記入する。</p>



※オクリンクプラス：株式会社ベネッセコーポレーションの小中学校向け ICT 学習ソフト「ミライシード」内に搭載する協働学習アプリのこと。

資料5 ミニエプロンの製作例

- 黄みどり色の糸で縫ってあるエプロン＝「仕上がりがよくミシン縫いができているもの」
- オレンジ色の糸で縫ってあるエプロン＝「ミシン縫いや作り方に課題があるもの」



【実践② 自分の生活から課題発見型（バーチャルバイキングを振り返って課題を発見）】

第6学年「こんだてを工夫して」の学習では、題材導入時に「バーチャルバイキング給食」を行った。タブレット上で自分が食べたい食品カードを選び、1食分の給食を考える活動を通して、一人ひとりが日常の食事で気を付けている点や、大切にしていることについて意識できるようにした。また、友達と選んだカードを見せ合ったり、選んだ理由を話し合ったりする活動を通して自分の問題点に気づき、家庭で昼食を準備する際に工夫したい点について考え、どのように1食分の献立を立てていきたいかという「ねがい」をもつことができるようにした。その後、「見いだした問題を課題の設定につなげるための手立て」として、タブレットを活用して一人ひとりの「ねがい」を全体で共有し、キーワードとなる言葉を集めながらクラス全体で題材を貫く課題を設定した。個人の課題や題材を貫くクラスの課題を明確にすることで、学習のゴールが児童にもイメージしやすく、目標や課題に向かって自分に必要な知識・技能を身に付けていこうとする姿が見られた。

〈本時のねらい〉 1食分の献立の栄養のバランスについて問題を見だし、課題を設定することができる。【思考・判断・表現】(2/12時)

学習活動	☆教師の支援と指導上の留意点
<p>1 前時の学習を想起する。</p>	<p>☆前時のワークシートから自分の問題点に気付かせる。</p> <div data-bbox="300 465 778 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>前時に取り組んだバーチャル昼食 (Canva で作成) をもとに振り返りを行った。</p> </div>  <div data-bbox="1029 488 1551 622" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなものばかりになっている。 ・野菜が少ない。・栄養のバランスが悪い ・品数が少ない。等 </div>
<p>2 自分で昼食を作るとしたら、どんな工夫をするとよいか考える。</p>	<p>☆1食分の献立は、主食、主菜、副菜、汁物で考えるとバランスがよい食事 (五大栄養素がそろふ) になることを確認する。</p> <p>☆前時の学習から、給食の献立を立てる際の工夫について振り返り、家庭での献立の立て方にも生かせることがないか考えさせる。</p>
<p>3 本時のめあてを確認し、学習の流れをつかむ。</p>	<p>☆友達と交流し、考え方や工夫の仕方は一つではないことに気付かせる。</p> <p>☆家庭科でできるようになったことを生かして、自分で昼食を作ることを確認する。</p>
<p>4 本題材で何ができるようにすればいいのか考える。</p>	<div data-bbox="454 1048 957 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分で昼食を作れるようになろう</p> </div> <p><予想される児童の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おいしい」といってもらえるご飯をつくりたい。 ・栄養のバランスを考えられるようにしたい。 ・1食分の献立が立てられるようにしたい。
<p>5 全体で共有し、題材を貫く課題を設定する。</p>	<div data-bbox="418 1350 1455 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分でこんだてを立て、栄養バランスのよい昼食を作れるようになろう</p> </div>
<p>6 学習計画を立てる。</p>	<p>☆板書にカードを掲示し、並べ替えることで児童と共に学習計画を立てる。</p> <p>☆題材全体の流れを確認することで学習の見通しをもたせ、学習への意欲を高めさせる。</p>
<p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>☆めあてを再度確認し、めあてに沿った振り返りを記入するよう助言する。</p>

(2) 手立て②画一的な教材を使った体験的・実践的な活動を、解決の必要がある問題発見・課題解決活動につなげるための工夫

体験的・実践的な学習を取り入れるにあたっては、家庭科担当教員の経験年数や児童の生活経験の実態から画一的な教材を活用することも多い。しかしながら、単に調理技能や製作手順を教えるだけで終わることがないようにし、児童一人ひとりが必要感を感じたり、課題を発見したりできるよう、題材の指導計画や教材の選択を工夫する必要がある。

【実践③ 調理実習における解決の必要がある問題発見・課題解決活動につなげるための工夫】

第6学年「こんだてを工夫して」の学習では、一人調理での実習を行う場面で共通に扱う食材と調味料を決め、これらについては学校で準備した。組み合わせる食材については、児童が調理計画を考え、家庭から一人分の分量を持参するよう声がけした。こうすることで、その題材で必ず身に付けさせたい知識・技能をおさえながら実習を行うことができるようにする。これにより、児童一人ひとりが思考・判断・表現する機会も設定することができるようになり、児童が主体的に課題解決に向けて取り組む姿が見られた。

〈本時のねらい〉おいしく食べるための主菜または副菜の調理の仕方について考え、工夫することができる。【思考・判断・表現】（6／12時間）

学習活動	☆教師の支援と指導上の留意点
<p>1 前時までの学習を振り返り、学習のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="440 786 1163 853" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>家族とおいしく食べる食事作りの調理計画を立てよう</p> </div> <p>2 食事作りの計画を確認する。</p> <p>3 調理実習で作る主菜または副菜の調理計画について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Canva でじゃがいも料理のレシピを調べ、作る手順を確認する。 <div data-bbox="304 1144 764 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>料理名 バター醤油の ジャーマンポテト 出来上がり写真</p> <p>材料・分量/1人分 ジャガイモ1つ ウィンナー 砂糖大匙1 醤油小匙1 バター15グラム 油少量</p> <p>調理の手順</p> <p>①ジャガイモの皮をむき、1口サイズに、ウィンナーは斜めに切り3から4等分にする ②ゆでてジャガイモを柔らかくする。 ③油を少量引いたフライパンでジャガイモとウィンナーを焼き目がつくまで強めの中火で炒める。 ④砂糖、醤油、バターを入れ2分ほど強めの中火で炒める。</p> </div> <p>※一人分の食材の分量については、重さを調べるだけではなく、用意しやすいよう「ピーマン1/2個」というようにめやすの量を確認するようにする。</p> <p>4 友達と調理する料理を伝え合い、どのように進めたら時間内に調理できるかを考えながら話し合う。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、調理実習に向けて確認することや準備することを整理する。</p>	<p>☆計画、準備、調理、片付け、会食、振り返りの手順の中で、本時では調理の計画を中心に考えることを確認する。</p> <div data-bbox="837 1025 1418 1554" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆献立を考える際の約束☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主菜か副菜のいずれかにじゃがいもを使用する。 ・じゃがいもを使った料理を調理実習で調理する。 ・じゃがいもと組み合わせて使用する食材は、加工食品、卵、野菜の中から3種類まで（加工食品は2品まで）とし、家庭から使用する分量を計って持ってくる。 ・塩、こしょう以外の調味料を使用する場合は、家庭から使用する分量を計って持ってくる。 ・調理時間は一人20分をめやすとする。 </div> <p>☆調理台やガスコンロを使用するタイミングが重ならないようにタイムテーブルを活用しながら調理計画を立てられるようにする。</p> <p>☆友達同士で、共有できるようにCanvaのプレゼンテーション機能を用いて作業する。</p> <p>☆材料の準備に協力していただけるよう、家庭への連絡カードを活用する。</p>

※Canva：オンライングラフィックデザイン作成アプリのこと。

【実践④ 製作における解決の必要がある問題発見・課題解決活動につなげるための工夫】

第6学年「ソーイングで生活を豊かに」の学習では、教材会社の教材（キット教材）を購入して作品を作るが、児童が製作しながら製作手順や裁縫用具等の適切な扱い方について学習し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得することができるようにする。題材の終末において、自分が日常生活に必要な物を入れるための袋（バッグ）を製作するにはどのくらいの大きさの布を準備したらよいか、児童が考える活動を計画に位置付け、製作中に学習した「ゆとり」や「ぬいしろ」を思い出しながら、それらの必要性についての新たな課題を見いだせるようにする。

〈本時のねらい〉 布を用いた袋の製作について、工夫し、実践しようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】（10／10時）

学習活動	☆教師の支援と指導上の留意点
<p>1 前時までの学習を振り返り、学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の作りたい袋を考えて製作計画を立てよう</p> </div> <p>2 布を準備する時には、どのようなことを考える必要があるかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入れたいものの大きさを測って確認する。 ・形を考える。 （縦型 or 横型）（手提げ or 巾着） ・ゆとりを考える。 ・ぬいしろを加える。 ・たての長さの2倍の布が必要 <p>3 自分が袋に入れたいものを決め、作りたい袋の大きさ、形を決める。</p> <p>4 必要な布の大きさを書き出し、友だちと確認し合う。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、袋を作る際に大切なことについて整理するとともに、今後の生活に生かせる点を考える。</p>	<p>☆キット教材を用いた製作実習を振り返り、自分の作りたい大きさ、形で作る際にはどのようなことについて考えたらよいかを課題とする。</p> <p>☆「入れたい物の大きさ」＋「ゆとり」＋「ぬいしろ」の大きさを考え、たての長さはその2倍必要であることを黒板に掲示して視覚的に印象付けられるようにする。</p> <div data-bbox="1077 1102 1423 1514" style="text-align: center;"> </div> <p>☆自分の入れたい物を持参させたり、教室にある物を活用したりしながら、実際大きさを測りながら行うようにする。</p> <p>☆同じ物を入れようと計画している児童同士で比較させたり布の大きさを決めた根拠について話し合わせたりすることで、自分たちの考えた布の大きさが妥当であるかを検討できるようにする。</p> <p>☆すぐに製作実践に結びつかない場合でも、必要となった際学習した考え方を活用できることを助言する。</p>

3 視点3 児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫

(1) 手立て①デジタルとアナログの「ハイブリッドポートフォリオ」の活用

児童が、自己の学習を振り返り、課題解決や実践の評価・改善ができるよう、ポートフォリオを活用する。教員は、ポートフォリオへの記述内容から、課題解決に向けて工夫したことや自己評価等を見取り、全体や次時への手立てを考える。ポートフォリオの形式は、紙媒体のワークシートだけでなく、学習ソフト等の、クラウド上に記入する形式も活用する。その際、ワークシートに記入する内容とクラウド内で保存していく内容を明確にし、ワークシートには「クラウド」のイラスト等を入れることで、児童が保存場所を確認しやすくする。

【実践⑤ デジタルとアナログのポートフォリオを活用した振り返り】

第6学年「ソーイングで生活を豊かに」の学習では、身の回りにある布でできた袋を調べ、学習計画を立てた後、マイバック製作の計画を立てる活動までをワークシートで行い、製作実習ではオクリンクプラス（クラウド）を用いて振り返りを行った。3学期には、「生活の課題と実践」に関連付け、家族へプレゼントを作る「これまでの学習をいかしてオリジナルプレゼントをつくろう！」の学習においても、同様のポートフォリオを用いて授業を行った。写真を撮って保存するクラウドでの振り返りを行うことで、児童の製作進捗を確認し、次時での手立てを検討することができた。

わきの写真
背景の色【青】一人でどんでんできた
【黄色】教えてもらいながら一人でできた
【ピンク】教えてもらいながらやったが難しかった

- ・ミシンの準備やまち針の使い方などを改めて確認することができた。
- ・出し入れ口のまち針をつけることで、どう付ければよいか困った。
- ・下糸を通したり、からませたりすることが難しかった。

(2) 手立て②デジタルとアナログの「ハイブリッド評価」

知識・技能の評価については、実習時の行動観察やワークテストだけでなく、Microsoft Forms 機能を用いたテストも活用し、形成テストやプレテスト、再テストを実施する。児童が繰り返し学習内容を確認することで、身に付けさせたい知識・技能を確実に定着させることができるようにする。Forms 機能を用いたテストは、児童自身で答え合わせができるため、児童が自身の学習状況を把握しやすく、学習改善に向けて何に取り組めばよいかを考えることができるというよさが

ある。

思考・判断・表現の評価については、記述形式のパフォーマンステストを活用する。児童が自身の生活に学習内容を活かしているか（つなげているか）を、記述内容で評価する。

主体的に学習に取り組む態度の評価については、先述のポートフォリオを活用し、児童が自ら設定した課題について、例えば「上手くできたこと（解決できたこと）」「上手くできなかったこと（解決できなかったこと）」「上手くできるようにするために（課題を解決するために）どのように取り組むか（取り組んだか）」などを、記述と行動観察を合わせて評価する。

デジタルのよさとアナログのよさを、児童の実態や題材等に合わせて効果的に活用することで自己評価や相互評価、教員のアドバイスやフィードバックがしやすくなり、児童自身が学びを自覚し、改善を図っていくことができるようになると思う。

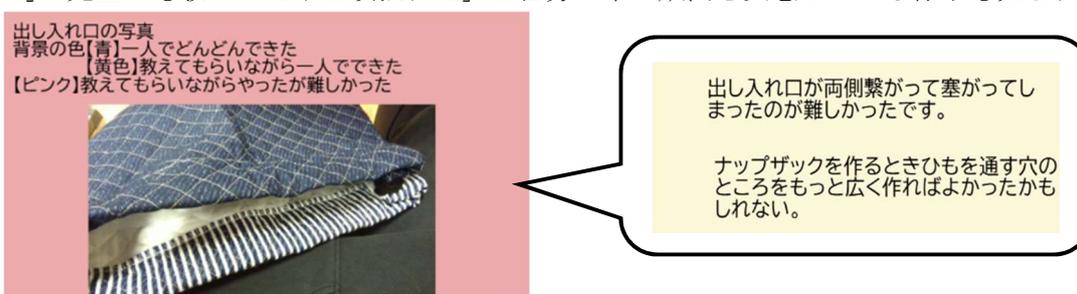
【実践⑥ Microsoft Forms 機能を用いたテストの活用】

Forms 機能を用いたテストを行うことで、児童がすぐに回答を確認することができた。また、実施直後に解答を参照することで、間違いの多い問題や疑問に思った問題を、児童とともに確認することができた。第5学年「食べて元気に」では、五大栄養素の問題や体内での働きについての問題でのつまずきが多く、繰り返しテストを行うなど、児童の実態に応じて工夫して活用することができた。



【実践⑦ ポートフォリオを活用した自己評価】

第6学年の製作学習において、クラウド上で振り返りを行う際、「一人でできた」「友達や先生に教わりながら一人でできた」「教えてもらいながらやっただが難しかった」の3観点で自己評価を行い、カードの背景をそれぞれ青色、黄色、ピンク色に変更して提出させた。色を変えることで児童のつまずきを把握し、次時の指導にいかすことができた。児童の中には「先週よりも一人でできた」「先生にも教わったけど頑張れた」と自分の中の成長を実感している様子も見られた。



題材で使用するワークシートとともに振り返りも全てクラウド上で行うなど、児童の実態に応じてポートフォリオの活用の仕方を検討した。クラウド上で行うことで、児童同士の考えを共有しやすくなり、相互評価につながった。

4 視点4 家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫

(1) 手立て①学校・家庭・地域の人材を活用した工夫ある学習活動の設定

学習した内容を自分の生活で生かせるようにするためには、家庭や地域の方との関わりは不可欠である。カリキュラム・マネジメントの視点からも、体験的・実践的な活動の場面において、積極的に保護者や地域の方を授業に招き、学習内容を周知することが効果的である。

例えば、保護者や地域からミシンボランティアを募集する際には、児童と一緒に学ぶスタンスで参加できることをアナウンスすることで、保護者が参加しやすいようにする。また、該当学年の保護者だけでなくPTAのサポーター制度等を活用して幅広く人材を募ることで、児童もボランティアの方に教わるだけでなく、共に学ぶ姿勢で学習に取り組むことができるようになる。また、地域との共生を扱う題材では、地域の方や学校運営協議会委員等を招き、地域での活動の様子や地域への思いについて、地域の方から児童に伝えていただく場面を意図的に設定することで、児童の地域への関心を高め、主体的な活動へと展開していくことができ、家庭科の学習を通して地域と連携し、よりよい学校教育を目指すことにもつながると考える。

【実践⑧ 保護者によるミシンボランティアの積極的活用】

第5学年「ミシンで楽しくソーイング」の学習では、ミシンを初めて操作する場面から保護者ボランティアを募集し参加していただいた。児童と一緒にスタートから参加していただくことで、注意点や児童が失敗しやすい場面を共有しやすくなった。児童は、教員だけでなく気軽に質問できる保護者が近くにいることで、縫う前に手順が合っているかを確認したり、縫った後にうまく進めることができているかを尋ねたりしながら、自信をもって製作を進める姿が多く見られた。



【実践⑨ 地域との関りを意識した学習活動の展開】

第6学年「共に生きる地域での生活」の学習では、総合的な学習の時間と関連させ、地域の方と交流しながら学習を進めた。1学期には、学校運営協議会委員の方を招待し、地域の中で活動されている様子や児童に向けて地域が望んでいること等についてお話ししていただいた。子どもたちは、地域の方のお話をもとに、2学期以降、地域の行事に参加したり地域で自分ができることについて実践したりした。3学期には、今後自分が地域でできることについて考え、学校運営協議会委員へ提案した。

<第6学年「共に生きる地域での生活」 学習の流れ>

1 地域の方に、お話を伺おう。

自治会長や民生委員、PTA会長、チャレンジスクール実行委員長、小学校の後援会長、幼稚園の園長等、様々な立場で学校運営協議会委員として支えてくださっている方からお話を伺った。お仕事を始めたきっかけや、仕事をする上でのやりがいや大変なこと、6年生に期待することについてもお話ししていただいた。



2 自分たちにできることを考えよう。

地域の方のお話から、自分たちにできそうなこととして「あいさつをすること」「地域のイベントに参加すること」「地域のルールやマナーを守ること」「ゴミのないきれいな地域にすること」「資源を生かして地域を豊かにすること」を考え、グループに分かれて実践できそうなことについて考え、話し合った。

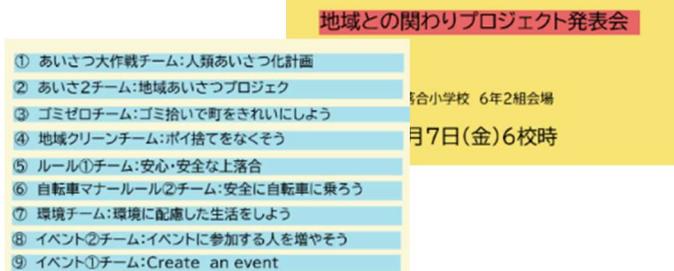
3 地域の中でできることをやってみよう。

実際に学校の周りを歩いてゴミを拾ったり、児童や地域の人へあいさつやイベントへの参加を呼びかけるポスターを作成したりした。



4 「地域との関わりプロジェクト」を発表しよう。

学校運営協議会委員の方を再度学校へ招待し、自分たちが考えた「地域との関わりプロジェクト」について発表した。



(2) 手立て②学校・家庭・地域での実践場面の設定

授業で身に付けた知識・技能の定着を図ったり、新たな課題を見つけて学びを継続させたりするためには、家庭実践が欠かせない。題材の指導計画に意図的に家庭実践を位置付けたり、長期休業中を利用して課題に出したり、他教科等や学校行事との関連を図り教育課程の中で実践の場を設定したりしていく必要がある。

児童の家庭実践においては、ワークシートだけでなく ICT 機器も活用することで、記録を容易にし、様々な題材で繰り返し取り組めるようにする。また、学校での実践においては、視点1のカリキュラム・マネジメントと合わせて検討し、児童の主體的な学びにつながるよう計画的に位置付けられるようにする。

【実践⑩ 家庭との関りを意識した学習活動の展開】

第5学年「クッキングはじめての一步」の学習では、夏季休業中に、使う野菜やゆで時間、オリジナルドレッシングの作成を自分で計画し、おうちの人のために作るという課題を出した。調理計画や完成写真、振り返りに加え、おうちの人から一言コメントを添えて提出させた。



作ってみて 工夫したところ・大変だったこと・気づいたこと・味・見た目

切る順番、ゆでる順番を工夫した

ゆで時間があるものから先に切ってスムーズにできるように工夫した。

見た目はきゅうりと人参とハムで彩りよくするようにした。

玉ねぎを入れる予定が忘れてしまいました。



作ってみて 工夫したところ・大変だったこと・気づいたこと・味・見た目

大変だったことは、じゃがいもとニンジンと一緒に茹でたら、じゃがいものほうが分厚く切っていたので、ニンジンが先に柔らかくなってしまったため、先にニンジンを1つずつ出して、じゃがいもだけさらに茹でたこと。

次は、同じ厚さに切って茹でたい。

教科書のを参考にドレッシングを作ったらとてもすっぱかったので、サラダ油を入れてまろやかにした。

ドレッシングもおいしかった。

お野菜の茹で具合もちょうどよかった。

おうちの時から

普段、キッチンに立つことがほぼないので、家庭科の授業をきっかけにお手伝いしてくれるようになりました。今回は野菜の皮むき、切る、ゆでるを自分でやり自信がついたようでした。

自分で作ったから、いつもよりも美味しそうに食べていました。また作ってくださいね！

おうちの時から

元から料理は好きなので、休みの日に卵焼きを作ったりしていました。

包丁の使い方は見えてハラハラしましたが、学校で教えてもらった通りに指をしまって上手に切っていました。

ピーラーも併用したり、タイマーを使ってきっちりやっていました。

家でサラダを食べるときはゴマドレッシングをかけるので、簡単だから作ってみたらどうかと私の方から提案させてもらい本人もせっかくなら作ってみたいということでゴマドレッシングにしました。

家族全員分作ってくれたので大変だったと思いますが、みんなが美味しいと食べてくれたのでとても嬉しそうでした。

これからも楽しく料理をしてくれたらいいなと思います。

家族が見守る中、計画から調理まで一人で行った児童が多く、学校での調理実習時には見られなかったような気づきをした児童もいた。例えば、野菜盛りだくさんのサラダを作ったが、調理過程が多く、普段ご飯を作っている家族が大変な思いをしていることを知った児童や、学校での調理実習時にうまくいかなかった点を家庭実践にて試行錯誤し改善した児童も見られた。また、作ったサラダを家族に褒めてもらい、調理に自信がついた児童もいた。保護者のコメントでは、作ったサラダを家族みんなで食べることにより、会話が弾み、団らんにつながった様子がうかがえた。

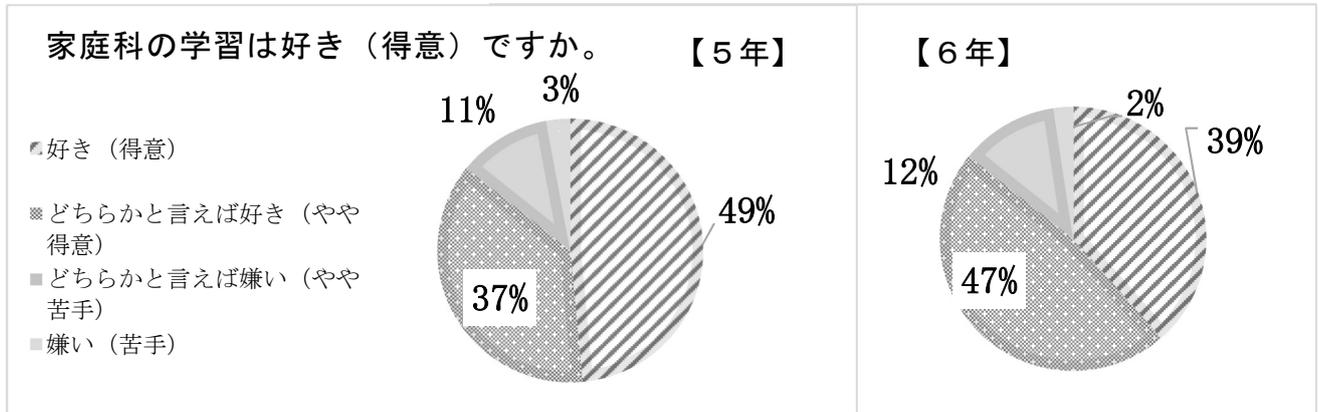
5 家庭科に関するアンケート調査結果

調査時期：令和7年7月・9月
 調査対象：さいたま市内児童
 調査員数：239名（5年）
 379名（6年）

(1) 児童アンケート

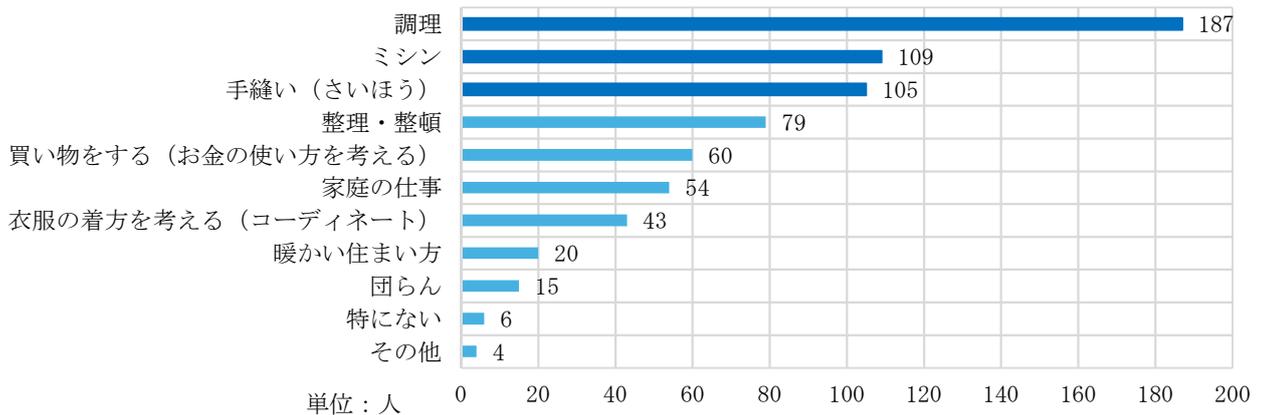
【5・6年共通項目】

設問1

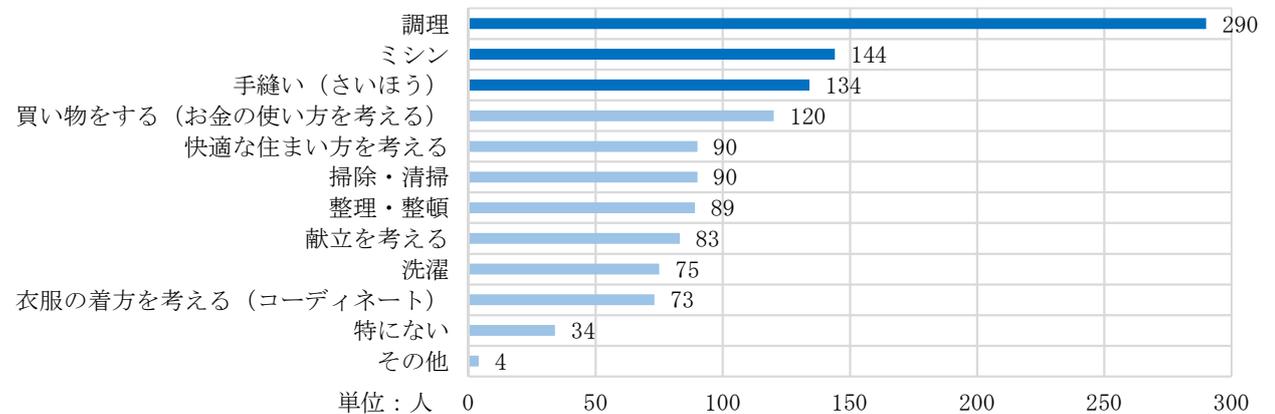


設問2

【5年】家庭科の授業で好きなこと（得意なこと）について教えてください。（複数回答可）

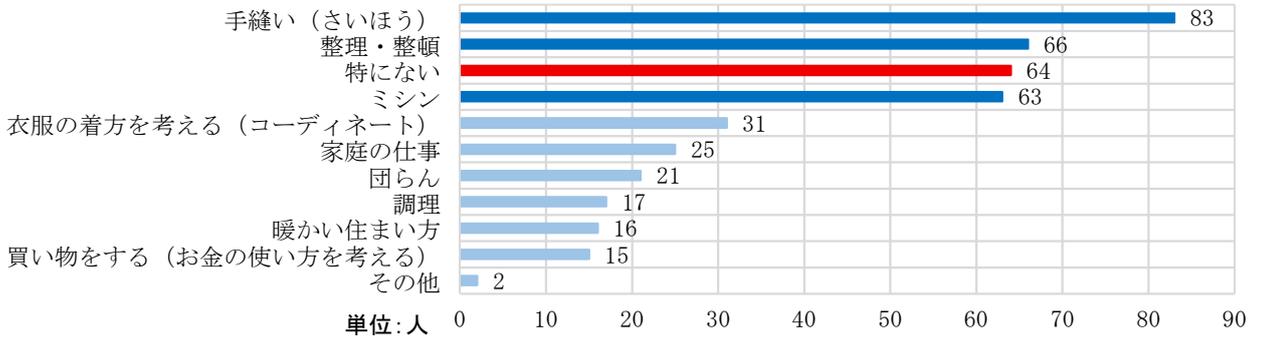


【6年】家庭科の授業で好きなこと（得意なこと）について教えてください。（複数回答可）

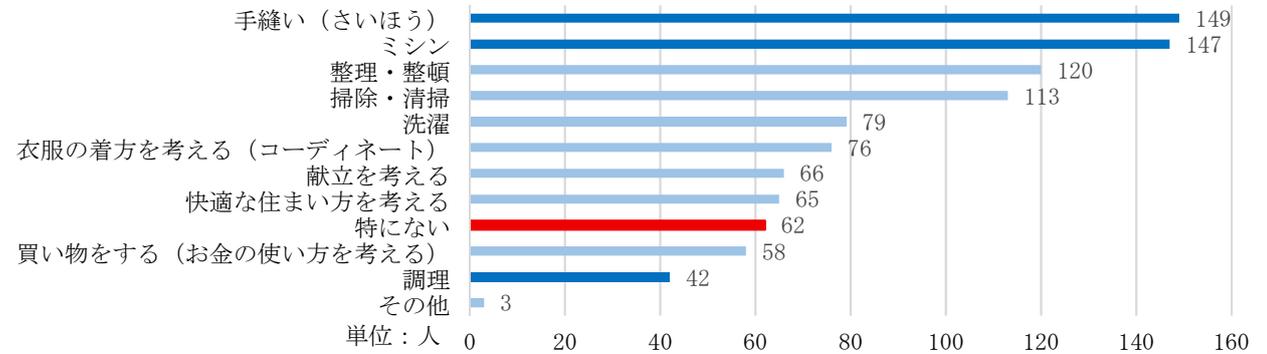


設問 3

【5年】家庭科の学習で嫌いなこと(苦手なこと)について教えてください。(複数回答可)



【6年】家庭科の学習で嫌いなこと(苦手なこと)について教えてください(複数回答可)



【考察】

「家庭科の授業は好き(得意)」または「どちらかと言えば好き(やや得意)」と回答した児童は、5年・6年共に約86%と、家庭科の学習を肯定的に捉えている児童が多いことが分かる。「好きなこと(学習内容)」として、5年、6年ともに「調理」が圧倒的に多く、続いて「ミシン」、「手ぬい(さいほう)」という結果となった。実習当日に完成し、試食することができる調理は、特に達成感を得やすく、結果が分かりやすい。複数回の学習を積み重ねて完成する「ものづくり」にも魅力を感じている児童が多いと考えられる。

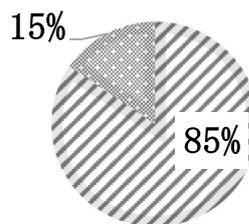
しかしながら、「手縫い(さいほう)」、「ミシン」については、「嫌い(苦手)」として回答する児童が、5年、6年ともに多い。手縫いでは玉どめや玉結びなどの手先の細かな作業が多いこと、ミシンでは上糸・下糸等のミシンの準備に時間がかかること、ミシン糸がからまって作業が中断することがあるなど、児童が「楽しい」と感じるできない場面があることが原因と考えられる。

設問 4

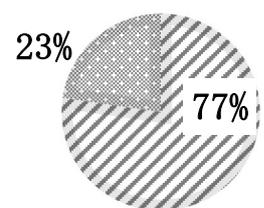
「ゆでる調理」(青菜や卵など)を、学校での学習後に家庭でも実践したことはありますか。

- 実践したことがある
- 実践したことはない

【5年】

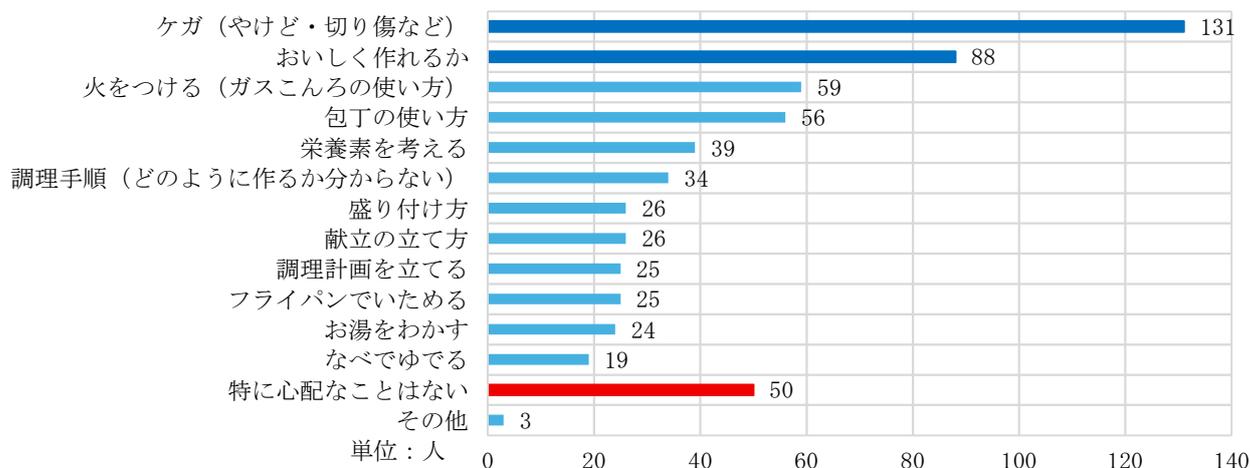


【6年】



設問 5

【5年】調理をする上で心配なことはありますか。(複数回答可)

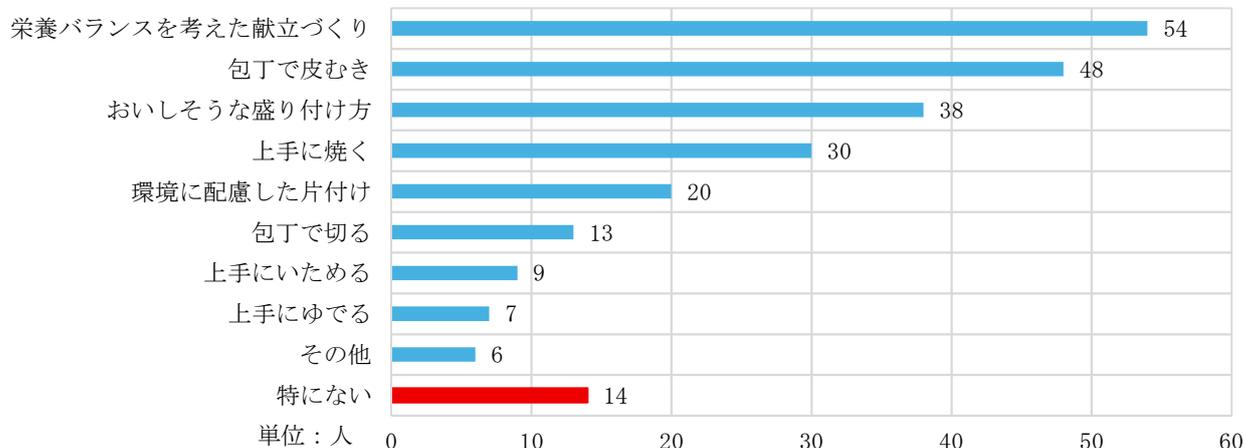


【6年】調理をする上で、心配なことはありますか。(複数回答可)

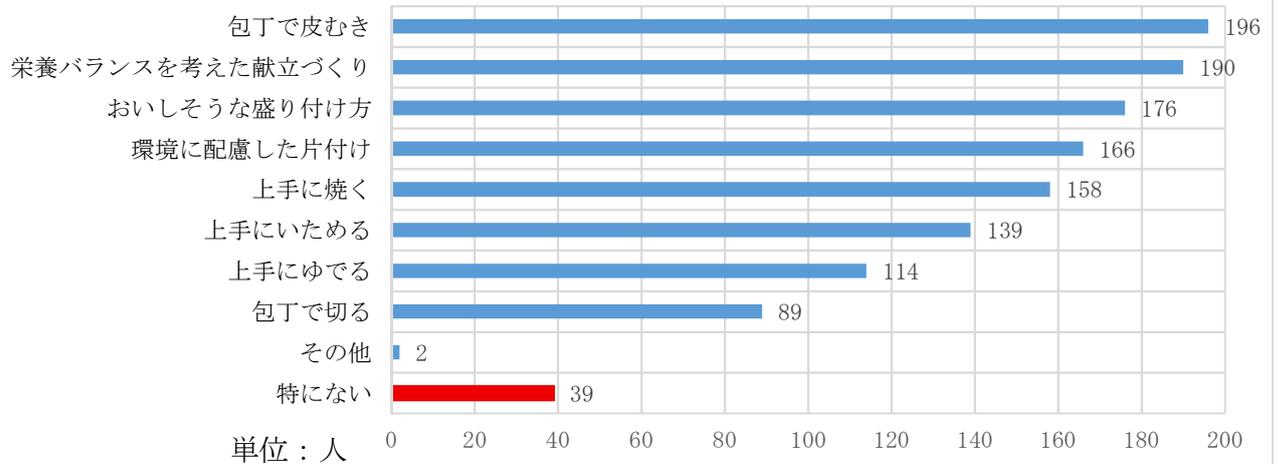


設問 6

【5年】調理の学習で、できるようになりたいこと・やってみたいことはありますか。



【6年】調理の学習で、できるようになりたいこと・やってみたいことはありますか。



【考察】

設問5では、「特に心配事はない」と答えた児童は、5、6年ともに約20%であり、児童の多くが何らかの不安を感じていることが分かる。最も多かったのは「ケガ（やけど・切り傷など）」であった。「包丁の使い方」が6年約27%、5年約23%、「火をつける」が6年約21%、5年約25%と、「火」や「刃物」といった内容の安全面に関する不安をもつ児童が多いことが分かった。

設問6では、6年で最も多かったのは「包丁で皮むき」で約51%、次いで「献立作成」が約50%「盛り付け」が約46%、「環境に配慮した片付け」が約43%と、調理技能以外の内容に向上心をもっている児童が多かった。5年では、最も多い内容が「栄養バランスを考えた献立づくり」で約23%、次いで「包丁で皮むき」が約20%、「おいしそうな盛り付け方」が約16%と、これから学習する・学習を深めていく内容が多かった。設問5・6の結果から、「心配なこと」と「できるようになりたい・やってみたい」内容は相反していることが分かった。

本市の児童は、調理に対し心配や難しさを感じつつも「挑戦したい」「もっとできるようになりたい」という前向きな気持ちをもっている。我々教員は、その気持ちに寄り添いながら、児童の実践意欲をさらに伸ばす支援と、食生活に関する基礎的技能を確実に習得させる指導を行わなければならない。

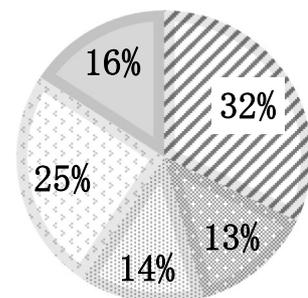
【6年アンケート】

以下は、題材「こんだてを工夫して」を研究する上で、児童の実態を把握するために調査した結果である。

設問7

休日のお昼ごはんの献立(こんだて)を考えたこと・作ったことはありますか。

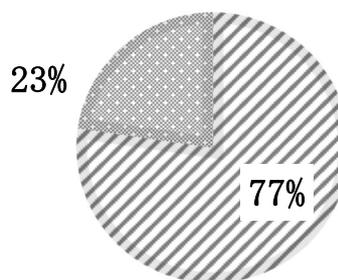
- 自分一人で考え、自分一人で作ったことがある。
- 自分一人で考え、おうちの人と作った（作ってもらった）ことがある。
- おうちの人と考え、自分一人で作ったことがある。
- おうちの人と考え、おうちの人と一緒に作ったことがある。
- 考えたことがないし、作ったこともない。



設問 8

普段、栄養バランスを意識して食事をしていますか。

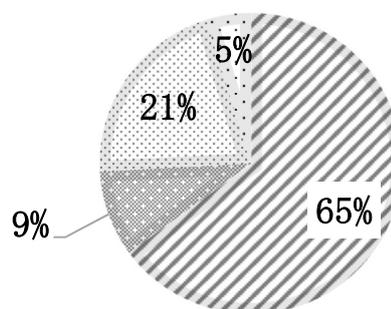
■意識している ■意識していない



設問 9

休日のお昼ごはん（こんだて）の献立を考えてみたい・作ってみたいですか。

- 献立を考えてみたいし、作ってみたい。
- 献立を考えてみたいが、作りたくない。
- 作ってみたいが、献立は考えたくない。
- 献立を考えたくもないし、作りたくもない。



【考察】

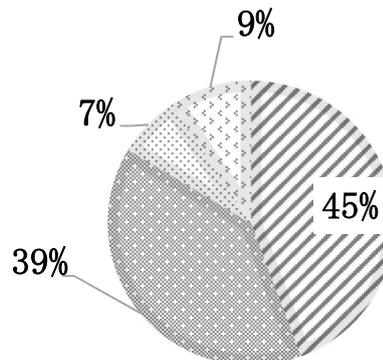
設問 7 の結果から、約 8 4 % の児童が何らかの形で休日のお昼ご飯を考え、作った経験があることが分かる。その中でも、全体の半数の児童が家族と協力して調理を行っており、家族と共に食事を作る機会がある児童が多い。また、栄養バランスを意識して食事している児童は、全体の約 7 7 % を占めていた。

一方で、設問 9 の結果を見ると、約 3 5 % の児童が「お昼ご飯を作りたくない」「献立を考えたくない」と否定的な回答をしている。献立を考えることへの苦手意識や、献立作成への興味はあるものの調理には抵抗がある、あるいは調理経験が少ないといった状況から否定的な回答をしていると考えられる。効率的な調理手順や安全な調理方法を学び、自分や家族のために栄養バランスのととのった献立を作成して実践するという楽しさを実感できるような学習を積み重ね、生活をよりよくしようと工夫する児童を育成したい。

設問 1 0

ピーラーや包丁を使って、じゃがいも・リンゴ等…皮むきをすることができますか。

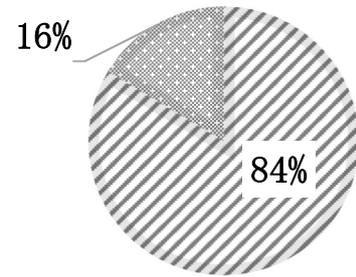
- ピーラーでも包丁でもできる。
- ピーラーではできるが、包丁ではできない。
- 包丁ではできるが、ピーラーはできない。
- どちらもできない。（やったことがない）



設問 1 1

「いためる調理（野菜・卵など）」を、学校での学習後、家でも実践したことはありますか。

- やったことがある
- やったことはない



【考察】

設問 4 「ゆでる調理」については、約 77% の児童が家庭でも実践していると答えている。児童にとっては、「ゆでる」調理方法は簡単で家庭実践しやすいものであると考えられる。設問 1 1 「いためる調理」については、「ゆでる」よりもさらに実践している割合が高い。いためる調理方法も、児童にとって身近であり家庭実践しやすい（家庭の協力を得やすい）調理方法であることがうかがえる。

さらに、家庭科の学習で学んだ調理方法を家庭で実践している児童（設問 4・1 1 の「やったことがある」回答者）は、「皮むきもできる」（設問 1 0）と回答する割合が高かった。反対に、「皮むきができない（やったことがない）」と回答した児童は、「ゆでる」も「いためる」調理も家庭実践が少ない傾向が見られ、調理スキルを伸ばすためには、家庭での調理経験の積み重ねが重要である。

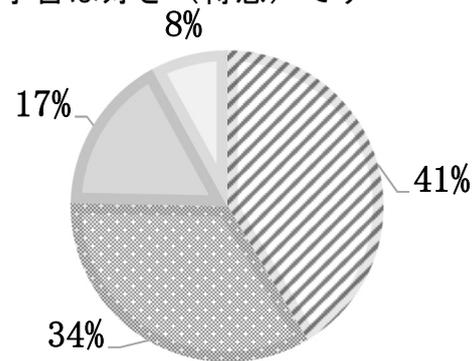
【5年アンケート】

以下は、題材「ミシンで楽しくソーイング」を研究する上で、児童の実態を把握するために調査した結果である。

設問 1 2

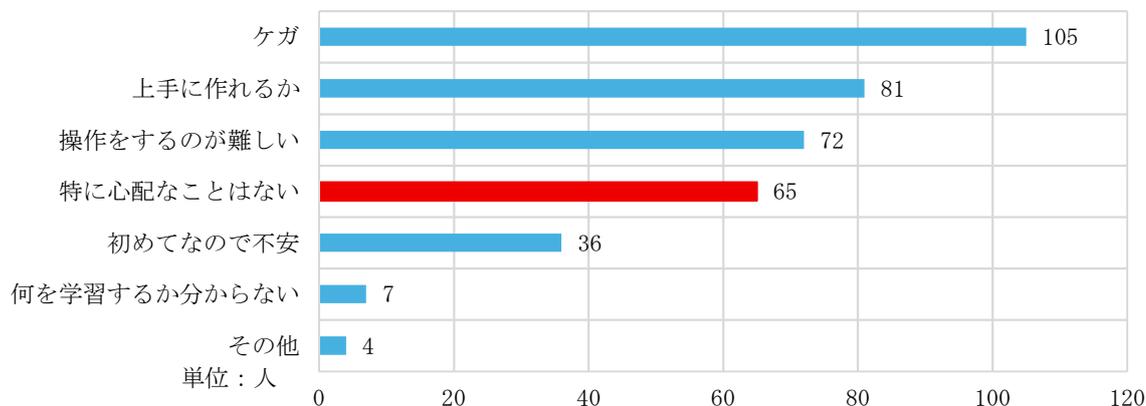
ソーイング（ミシンや手縫い）の学習は好き（得意）ですか。

- 好き（得意）
- どちらかと言えば好き（やや得意）
- どちらかと言えば嫌い（やや苦手）
- 嫌い（苦手）



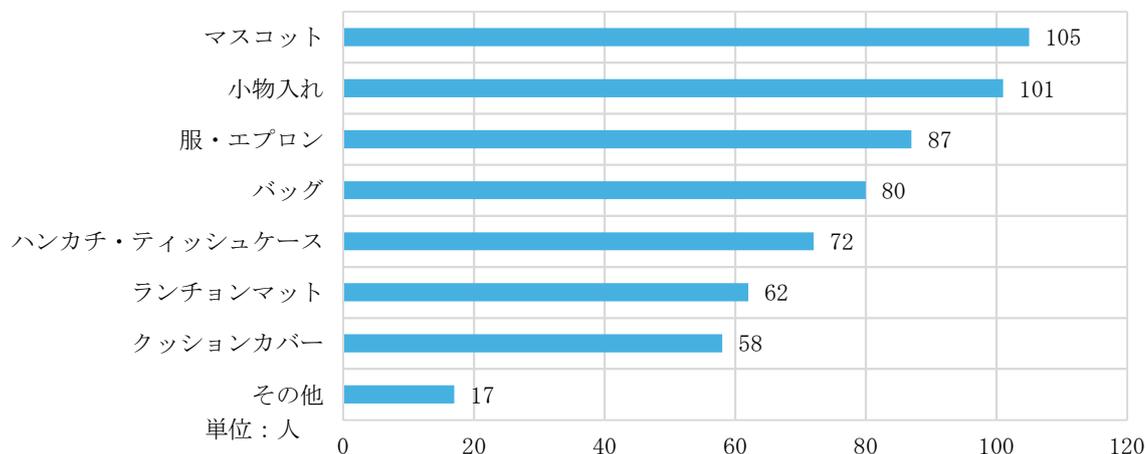
設問 1 3

ミシンを使った学習で、心配なことはありますか。
(複数回答可)。



設問 1 4

布を使って作ってみたいものは何ですか。
(手縫いでもミシンでも可。複数回答可)



【考察】

ソーイングの学習（設問 1 2）については、約 75% の児童が「好き」「どちらかと言えば好き」と肯定的な回答をしている。設問 1 3 では、「ケガ」が約 44% と多く、次いで「上手に作れるか」が約 34%、「(ミシンを) 操作することが難しい」が約 30% であった。用具の安全な取扱い（慎重な針の扱い、ミシンの安全な出し入れや移動など）について、危険防止や安全点検を習慣化できるように、製作の準備から片付けまでを児童一人ひとりが責任をもって安全に留意して行うことができるよう配慮するとともに、5 年生からの指導の徹底が必要であると考えられる。

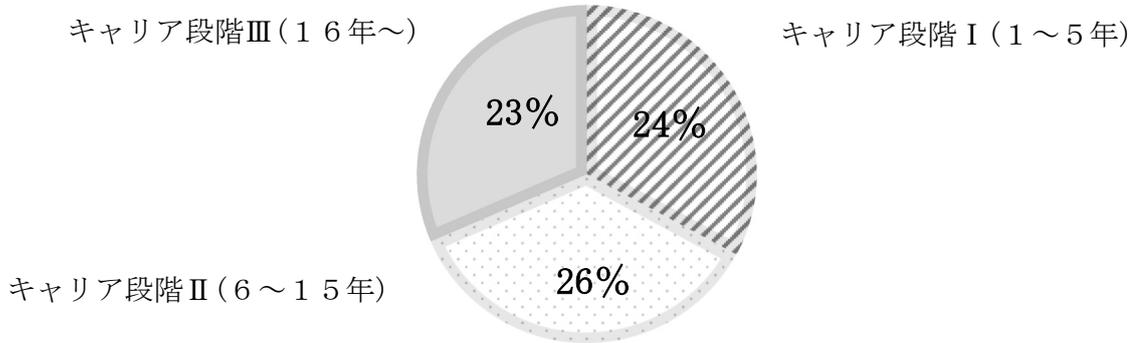
設問 1 4 では、「マスコット」が約 44%、「小物入れ」が約 42%、「服・エプロン」が約 36%、「バッグ」が約 33% であった。児童は、1 学期に手縫いを学習しており、手縫いを生活に生かす学習において製作した小物類を挙げているとうかがえる。

製作にかかわる意欲を 6 年生につなげ、さらには手縫いやミシン縫いの学習を生活に生かすことができるようにするために、製作したものを生活の中で使用して自己評価したり、次に工夫したいことを友達と話し合ったりする等の学習活動を充実させるなど、指導計画の工夫が必要である。

(2) 教員アンケート

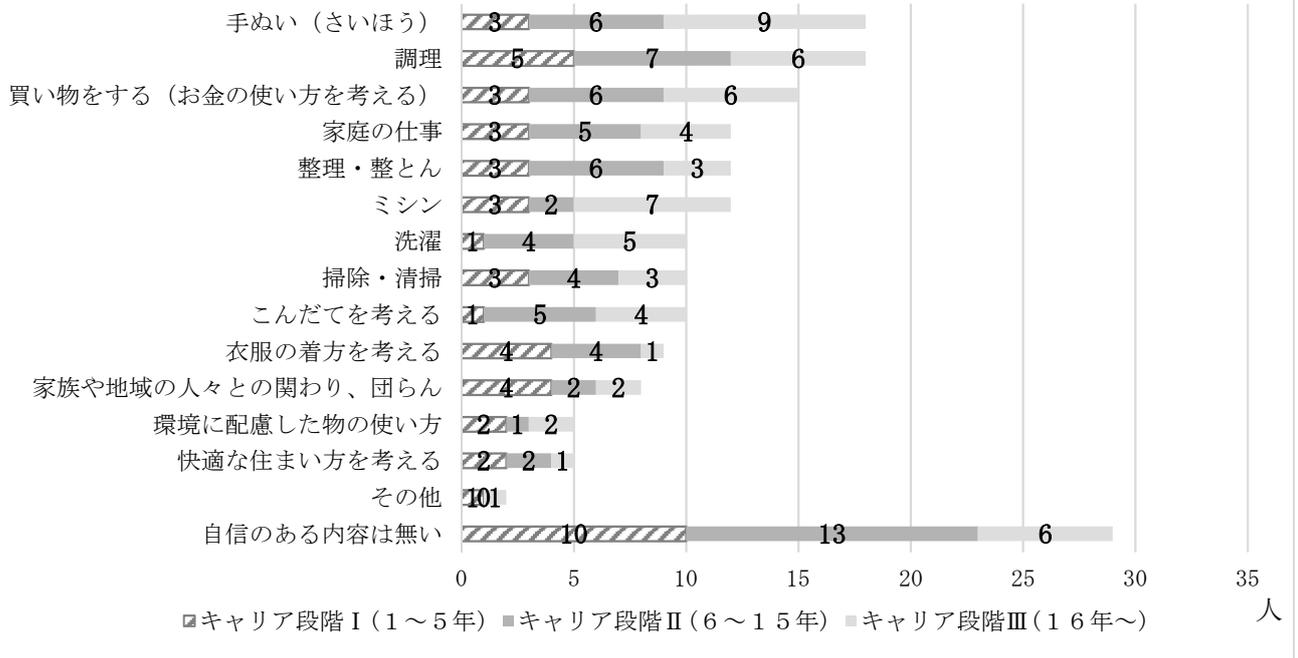
調査時期 令和7年9月
 調査対象 さいたま市内教員
 調査人数 73名

設問1 あなたの教員としての
 キャリアステージを教えてください。



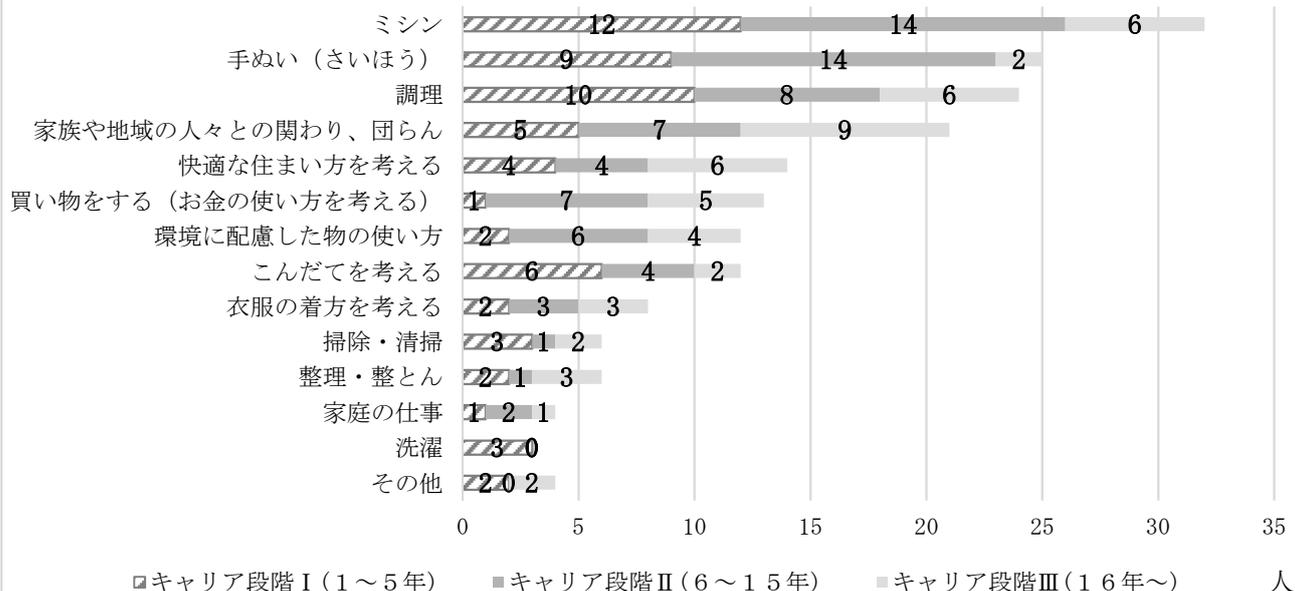
設問2

次の家庭科の学習内容の中で、
 指導に自信のあるものは何ですか。(複数回答可)



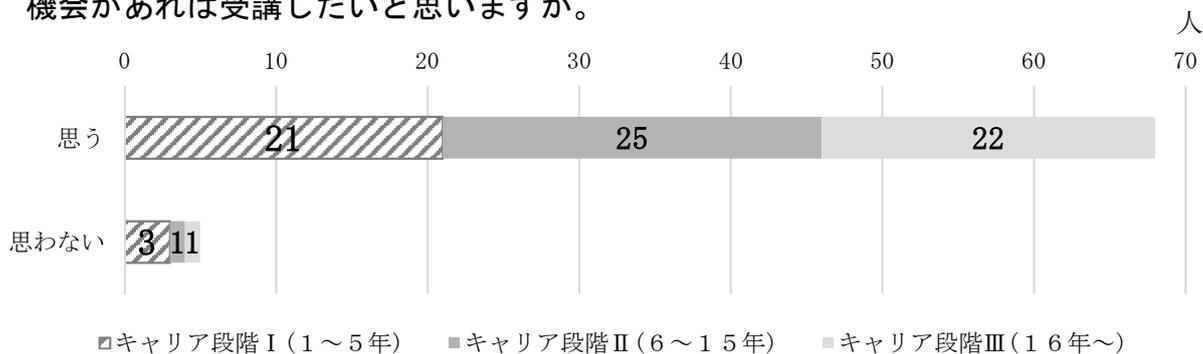
設問 3

次の家庭科の学習内容の中で、
指導が苦手と思うものは何ですか。(複数回答可)



設問 4

家庭科に関する指導力向上のための研修について、
機会があれば受講したいと思いますか。



【考察】

設問 2 については、「(指導に) 自信のある内容は無い」と回答する割合が約 40% を占めた。指導に自信がある内容としては、「手縫い(裁縫)」「調理」「買い物をする」が多く挙げられ、特にキャリア段階Ⅱ・Ⅲにその傾向が多く見られた。一方、指導に苦手意識を持つ内容としては「ミシン」が約 43% と最も多く、次いで「手縫い」が約 34%、「調理」約 32% であった。特にキャリアⅠ・Ⅱ段階において不安を感じる傾向が見られ、経験年数の浅さが影響していると考えられる。

設問 4 「家庭科に関する指導力向上のための研修の受講の希望」については、キャリア段階を問わず「機会があれば受講したい」との回答が多かった。キャリア段階Ⅱ・Ⅲでも半数以上が希望している。先に述べた、設問 2 「(指導に) 自信がある内容は無い」の回答が約 40% を占めていたことも含め、毎年度開催している、さいたま市教育研究会小学校家庭科専門部とさいたま市教育研究所の共催である「小学校家庭科実技研修会」や、さいたま市教育研究会研修大会での授業公開・研究協議会等、実践的な指導力向上の場を今後とも提供していきたい。

6 教員の指導力向上を目指す研修会の実施

本市では、市教育研究会家庭科部とさいたま市教育委員会教育研究所との共催による研修会（「家庭科実習研修会」）を毎年実施している。本研修会では、初めての家庭科の指導に苦勞したり悩んだりしている教員の声（初めて裁縫を経験する児童が多く、教師一人では対応が難しい場面がある等）を踏まえ、児童一人ひとりが主体的に取り組めるような支援や、安全面・衛生面に配慮した指導の提案をしている。なお、研修会の講師は、全て市教育研究会家庭科部の推進委員（本市教員）が務めている。

<令和6年度さいたま市教育研究会家庭科部実践報告より抜粋>

A 調理・製作の安全と題材計画（講義）



なぜ、調理や製作中にけがや事故が起きるのか？

毎年、家庭科の実習中にやけどやミシンの針が刺さってしまう等の事故が起きています。それらを未然に防ぐために、「なぜ、けがや事故が起きてしまったのか」「どうすれば防ぐことができたか」について、3つの事例を取り上げてグループ協議を行いました。また、後半は題材計画の立て方について講義を行いました。学習指導要領の目標や内容を着実に実施するために、どのような学習が必要か考えました。

B 調理実習（みそ汁）



だしをとって、おいしいみそ汁を作ろう！

だしのよさを実感してもらうために、昆布、かつお節、干しいたけの3種類でとっただしを用意し、飲み比べクイズを行いました。その後、教科書に掲載されている煮干しだしのみそ汁を取り上げ、和食の基本であるだしのとり方の実習をしました。調理実習中の評価方法の一つとして、オクリンクを使った見取りを提案し、評価のヒントとなるようにしました。

C ミシンを使った製作



授業で使えるミニエプロンを作ろう！

ミシンを使う時の安全指導についての講義と、2種類のミニエプロン製作（縫い目がまっすぐで返し縫いや三つ折りなどが正しくできているもの、縫い目が曲がっていて縫うべきところが縫えていないもの）を行いました。実際の授業では、これらを見比べて製作時に気をつけたいポイントを見つけたり、大切にしたいことを話し合ったりしながら、願いや課題を設定していく授業展開として活用していくことができます。

7 授業の実際

(1) 令和5年度さいたま市教育研究会研究大会 家庭科部授業研究会

研究主題 学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成
指導者 さいたま市教育委員会学校教育部指導1課指導主事 小林 由美恵 様
題材名 「ミシンでソーイング」～自分だけのエプロンを作ろう～

<プレ授業> 10月11日(水) さいたま市立東宮下小学校 青木 翠 教諭

<本時のねらい> 生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、問題を見いだして課題を設定することができる。

※P10に略案を掲載しています。

(2) 令和6年度さいたま市教育研究会研究大会 家庭科部授業研究会

研究主題 学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成
指導者 さいたま市教育委員会学校教育部教育課程指導課主任指導主事 小林 由美恵 様
題材名 「こんだてを工夫して」～自分で昼食を作ろう～

<プレ授業> 10月24日(木) さいたま市立河合小学校 盛 聖子 教諭

<授業研究> 11月21日(木) さいたま市立西原小学校 塩澤 さとみ 教諭

<本時のねらい> 1食分の献立の栄養バランスについて問題を見だし課題を設定することができる。

※P12に略案を掲載しています。

※指導案・ワークシート等の詳細は、下の URL を参照するか、または二次元コードを読み取ることでご覧いただけます。

【埼玉県小学校家庭科教育研究会 URL】

<https://www.saitama-shokaken.com/cont1/main.html>



Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

(1) 児童の実態把握と共通体験の提供

アンケートや生活経験の把握を通じて児童の実態を理解し、経験の差を埋めるために共通体験を設定することで、学習のスタートラインを揃えることができた。「今の自分」と「なりたい自分」のギャップを意識することで、児童に困り感がなくても課題を持たせる視点が共有された。

(2) ゴールの明確化と共有

体験や実践を通じて育てたい資質・能力を、教師と児童がともに具体的にイメージできるようにし、学習の目的意識、題材で付けたい力等を高めることができた。

(3) 内容項目を関連させた学び

衣食住の生活 (B)・消費生活・環境 (C) に加えて、家族・家庭生活 (A) の内容も含めることで、家庭実践を図りやすく、より実生活に根ざした学びにつながった。

(4) 地域・学年に応じた指導の工夫

学年ごとに指導の重点を変えることで、系統的なレベルアップが見られた。(例：5 学年は基礎を重視する、6 学年は創意工夫を重視する等)

2 課題

(1) 題材構成と課題設定のタイミング

課題をつかむタイミングは必ずしも学習の初回とは限らず、柔軟な題材構成と指導計画が求められるため、教材研究が必須である。

(2) 資質・能力の具体化の難しさ

目指す姿を児童と共有する際、抽象的な資質・能力を具体的なイメージに落とし込む工夫が必要である。

(3) 課題設定の視点の広がり

「できていないこと」だけでなく、「成長のために必要なこと」を課題として捉える視点を押さえる(児童に捉えさせる)必要がある。

Ⅳ おわりに

本研究では、毎年研究授業担当となった区の家庭科主任の先生方と市教研推進委員が、研究に取り組み、意見を出し合いながら、よりよい実践にしていくために検討を重ねてきた。「主体的に学び続ける教師の姿は、児童にとっても重要なロールモデル」(中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会第3回合同会議資料より抜粋)と言われるように、探究心を持ちつつ自律的に学ぶ、我々教員の姿がまさに家庭科の学習で子どもたちに求めている姿である。

本市の子どもたちに、家庭科で身に付けた力を、家庭から地域、そして最終的に社会へとつなげ、社会を生き抜く力を育ていけるよう、今後も家庭科教育を推進していく。

埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動状況

目 次

あいさつ	33
1 令和7年度事業計画	33
2 役員及び運営組織・各部等の活動内容	34
3 総会並びに講演会	35
4 研究指定地区研究の歩み一覧表	36
5 地区別授業研究会 《東部・加須市 北部・児玉 南部・鴻巣二市 西部・比企》	39
6 各部活動報告（研修部、広報部、調査研究部、庶務部）	41
7 令和6年度 埼玉県発明創意くふう展入選作品	43
8 令和7年度全国大会	44
9 令和7年度埼玉県小学校家庭科教育研究会役員名簿	45

あ い さ つ

埼玉県小学校家庭科教育研究会会長 井上 千春

本研究会は、昭和45年に第1回研究会を開催して以来、小学校家庭科教育の充実・発展を願い、たゆまぬ努力と実践を重ねてまいりました。その間、昭和63年に埼玉県にて第25回全国小学校家庭科教育研究大会、平成11年に第17回、平成24年に第29回令和3年に第37回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会を開催することができました。コロナ禍で参集型での研究協議会ができない等を経験する中でも、「一人の百歩より百人の一步」を基本とした会員の方々の地道に取り組んできた努力のお陰と深く感謝申し上げます。

さて、今年度の研究指定地区であるさいたま市の研究発表がさいたま市立与野本町小学校で開催されることとなりました。研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」と設定して、これまでの本会での研究を基礎とし、研究を積み重ねてまいりました。また、県内各地区におきましても、昨年度までの研究成果を引継ぎながら、さらなる家庭科教育の充実・発展に繋げるための研究が継続されていますことに感謝いたします。

なお、本会では、県内の家庭科授業の向上のため、各地区で行われている授業研究会での実践をHPで公開し、各校での授業の参考にしていただき、さらなる授業改善を進めていただきたいと思います。ぜひ、本会HPをご覧ください、各校、地区の研究に役立てていただきたいと思います。

本研究集録は、前半に指定地区の研究を、後半に研究会の組織及び各部の活動状況を掲載しております。各学校でご活用いただければ幸いです。

1 令和7年度事業

- (1) 令和7年度総会（第1回役員研修会）
6月6日（金）
 - ・ 令和6年度事業報告、活動報告、決算報告、監査報告
 - ・ 新役員承認、研究組織
 - ・ 令和7年度事業計画、活動計画、予算案
 - ・ 令和7年度指定地区の研究概要説明
 - ・ 感謝状の贈呈
 - ・ 講演会
講師：埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事 山崎 元美先生
- (2) 夏季研修会（第2回役員研修会）
8月8日（金） 於 withyouさいたま
 - ・ 4部会の活動経過報告について
 - ・ 今年度の研究発表について
 - ・ 次年度の研究発表について
- ・ 講演会
講師：埼玉県総合教育センター
指導主事 石川 万記子 先生
- (3) 埼玉県児童生徒発明創意くふう展
10月24日（金）～25日（土）
於 新都心ビジネス交流プラザ
- (4) 指定地区研究発表会（さいたま市）
11月26日（火）
於 さいたま市立与野本町小学校
- (5) 地区別授業研究会（地区ごとに実施）
南部（鴻巣） 西部（入間）
東部（北埼玉） 北部（児玉）
- (6) 本部役員会・第2回役員研修会
2月半ば頃 於 withyouさいたま（予定）
 - ・ 今年度の反省
 - ・ 次年度への展望

2 役員及び運営組織・各部等の活動内容

(1) 役員等（会則2章による）

①会長	1名
副会長	5名
監事	若干名
幹事	若干名
常任理事	若干名
理事	各班1～2名程度

②名誉会長・顧問 歴代会長が顧問となる。

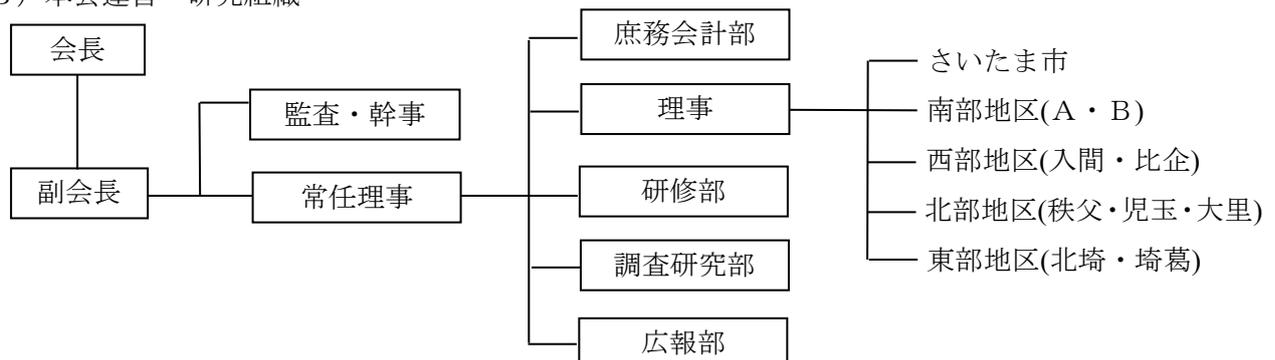
(2) 歴代会長

代	氏名	期間
初代	若田 せつ	昭和42年度～53年度
2代	塚脇 和子	昭和54年度～56年度
3代	村田 美代	昭和57年度～58年度
4代	湯本トヨジ	昭和59年度
5代	横田 節子	昭和60年度～63年度
6代	松崎 澄枝	平成元年度～3年度
7代	熊倉 晴子	平成4年度
8代	根岸 彩子	平成5年度～7年度
9代	近藤 三恵	平成8年度
10代	木島 千恵	平成9年度～10年度
11代	吉泉 幸枝	平成11年度～13年度
12代	西田三枝子	平成14年度
13代	関口 享子	平成15年度
14代	島村 憲子	平成16年度
15代	佐藤 順子	平成17年度
16代	野本 和子	平成18年度
17代	山中伊久枝	平成19年度
18代	後田 房枝	平成20年度～22年度
19代	小川三代子	平成23年度～25年度
20代	宮川みさ子	平成26年度
21代	野口 紀子	平成27年度
22代	染谷 和美	平成28年度
23代	田中 恵子	平成29年度～30年度
24代	榊原 久子	令和元年度
25代	長島 淑子	令和2年度
26代	池田智恵子	令和3年度
27代	小峯由起子	令和4年度～5年度
28代	井上 千春	令和6年度～7年度

(4) 各部の構成と活動内容

部会	部長	部員	活動内容
研修部	棚村 かわり	原田 千恵	研修会の計画・準備・運営 プレ授業の指導 研究集録作成
		伊藤よお子	
		池田 絢子 古森 美希	
		富田 陽子 森山やす子	
		荒井 美穂 岸 寛子	
		町田 あき 杉山さおり	
調査研究部	大島 恵美	金子明日香	全国調査協力
		松島夢里有 吉野 淑恵	
		村山 聡美 高須賀亜理紗	
広報部	関口 循子	小笠原泰代	名簿作成 研究集録作成
		神保 菜月 吉田 茉生	
		野本 文恵	
庶務部	川村 亜希子	刑部 香織	研究会細案 紀要等袋詰 文書作成 開催承認 要綱準備
		齊藤 和子	
		千葉 隆一 押切今日子	
		中村 朱里 北爪 杏奈	
会計部	三ヶ尻陽子	高橋容史子	会計関係
		渡邊はるか	

(3) 本会運営・研究組織



3 総会並びに講演会

令和7年6月6日(金)に、さいたま市の「Withyou さいたま」にて令和6年度の総会並びに講演会が実施された。

(1) 総会(第1回役員研修会)

① 議事

- ・令和6年度事業報告
- ・4部会、専門委員会の活動報告
- ・令和6年度決算報告
- ・監査報告
- ・新役員の承認
- ・新役員の挨拶
- ・令和7年度事業計画
- ・令和7年度予算案

② 委嘱式(別日程にて実施)

研究発表校：さいたま市立与野本町小学校

③ 研究推進委員長による研究概要説明

- ・主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
ー学びをつなぎ、家庭生活をよりよく工夫し実践する児童の育成ー

- ・期日 令和7年11月26日(水)
- ・会場 さいたま市立与野本町小学校
- ・研究の視点

1. 実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫
2. 主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫
3. 児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫
4. 家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫

④ その他

- ・全小家研の申し込み
- ・夏季研修会の日程
- ・全国大会及び関ブロ大会の山梨大会の案内
- ・学校メールの確認のお願い

(2) 講演会

演題「これからの家庭科教育に期待すること」

講師 埼玉県教育局市町村支援部
義務教育指導課

指導主事 山崎 元美 先生

内容

① 子どもたちに必要な資質・能力の育成のために

○小学校・中学校・高等学校の系統性を明確化

○学校段階に応じた指導内容(例

A:「小:自分の成長と家族・家庭生活」

「中:幼児の生活と家族」(幼児)

「高:子どもとの関りと保育・福祉」(乳幼児から小学校低学年)

② 学習指導要領実施状況調査

○問題解決的な学習を通して授業改善をする。問題を自分事としてとらえる手立てを考える。

○変化の激しい社会に主体的に対応するため、問題に直面しても自分なりに判断し解決できる力を家庭科で養う。

③ 家庭科における安全教育

○体育・図画工作に次ぐ発生件数。刺創、熱傷・火傷が主な怪我の種類。

○実習の指導と安全教育

安全指導

心の安全、感覚の安全、身体の安全、安全管理

人的管理・物的管理

④ 県の取組等

○「埼玉県小・中学校教育課程指導・評価資料」や「同実践事例」の活用

○R7.3「小学校教育課程実践迫事例」

○埼玉県の指導の重点

・ICTの効果的な活用

・生活や社会の中から問題を見だし課題を設定し、解決する力

・「指導と評価の一体化」の実現

4 研究指定地区研究の歩み一覧表

回数	年度	研究指定地区	研究主題・副題	会場校
1	昭和45	北足立北部地区	改正をふまえた領域別指導の研究 —児童の主体性をのばすための学習指導方法—	大宮市立 大宮小
2	昭和46	大里・秩父・児玉地区	効率を高めるための学習指導法 (全領域)	熊谷市立 桜木小
3	昭和47	入間・比企地区	教科の本質をおさえた指導課程の研究 (食・住・家領域)	川越市立 第一小
4	昭和48	埼玉・北埼玉地区	主体的に取り組み、実践力をつけるにはどうしたらよいか (被・食・住領域)	幸手市立 幸手小
5	昭和49	北足立南部地区	主体的に取り組み、実践力をつけるにはどうしたらよいか (被服領域)	浦和市立 常磐小
6	昭和50	北足立北部地区	実践的態度を高めるために家庭科指導はどのようにしたらよいか —被服領域を中心として—	大宮市立 日進小
7	昭和51	大里・秩父・児玉地区	実践力を高める食物領域の指導	秩父市立 西小
8	昭和52	入間・比企地区	主体性を高める学習指導 (被服領域)	東松山市立 高坂小
9	昭和53	埼玉・北埼玉地区	豊かな人間性をめざして実践的態度を育てる家庭科指導 —被服領域を中心として—	羽生市立 南小
10	昭和54	北足立南部地区	豊かな人間性をめざして実践的態度を育てる家庭科指導 —食物領域を中心として—	新座市立 新座小
11	昭和55	北足立北部地区	主題：前年度に同じ —被服領域における基礎的事項の工夫—	桶川市立 桶川西小
12	昭和56	大里・秩父・児玉地区	主題：前年度に同じ —やる気と喜びをもたせる学習指導の工夫—	神川町立 青柳小
13	昭和57	入間・比企地区	主題：前年度に同じ ー日常生活を見直す目を育てる学習指導の工夫— (食物領域)	坂戸市立 浅羽野小
14	昭和58	埼玉・北埼玉地区 第1回関東大会	豊かな人間性をめざして実践力を育てる家庭科指導の研究 ー基礎をおさえて生活に生かす指導の工夫—	春日部市立 宮川小
15	昭和59	北足立南部地区	主題：前年度に同じ ー住居と家庭領域の指導を中心として— (住居と家庭領域)	川口市立 本町小
16	昭和60	北足立北部地区	豊かな人間性をめざして実践的態度を育てる家庭科指導 ー基礎をおさえ、やる気を育てる指導法の工夫— (食物領域)	鴻巣市立 馬室小
17	昭和61	大里・秩父・児玉地区	主題：前年度に同じ ー生活実践に生きる家庭科指導の研究— (被服領域)	寄居町立 男衾小
18	昭和62	入間・比企地区	時代の変化に適應できる豊かな創造性と実践力を育てる家庭科指導 ー体験学習を生かし自ら工夫し実践する児童の育成— (食物領域)	小川町立 大河小
19	昭和63	北足立北部地区 第25回全国大会	主題：前年度に同じ —自ら工夫し、実践する子どもをめざして— (食物領域)	大宮市立 大宮小 宮原小
20	平成元	埼玉・北埼玉地区	主題：前年度に同じ ー自ら工夫し、実践する子どもをめざして— (被服領域)	行田市立 西小
21	平成2	北足立南部地区	主題：前年度に同じ ー快適な生活を営むための工夫や実践ができる子どもをめざして— (家族の生活と住居領域)	浦和市立 大門小
22	平成3	大里・秩父・児玉地区	時代の変化に對應できる豊かな創造性と実践力を育てる家庭科指導 ー喜びを味わう食生活の工夫— (食物)	秩父市立 影森小

23	平成4	入間・比企地区	主題：前年度に同じ ―生活を見つめ、自分らしさを表現できる子どもをめざして―（被服領域）	川越市立 牛子小
24	平成5	埼玉・北埼玉地区	主題：前年度に同じ ―家族への思いを大切に、自ら生活に生かす子の育成―（家族の生活と住居）	杉戸町立 杉戸第二小
25	平成6	北足立南部地区	社会の変化に主体的に対応する豊かな心と実践力を育てる家庭科学習 ―身近な生活に目を向け、よりよい環境づくりに努める子―	新座市立 栗原小
26	平成7	北足立北部地区	主題：前年度に同じ ―一人一人の思いや豊かな発想を生かして実践する子―	吹上町立 吹上小
27	平成8	大里・秩父・児玉地区	主題：前年度に同じ ―自分の生活に目を向け、進んで実践していこうとする子をめざして―（食物領域を中心として）	本庄市立 旭小
28	平成9	入間・比企地区	主題：前年度に同じ ―身近な生活から課題を見付け、自ら解決し実践する子をめざして―（食物領域を中心として）	東松山市立 青鳥小
29	平成10	埼玉・北埼玉地区	社会の変化に主体的に対応する豊かな心と実践力が育つ家庭科学習 ―自分の思いや願いを生かしよりよい生活をめざして実践する子―（食物・家族の生活と住居領域）	加須市立 花崎北小
30	平成11	入間・比企地区 第17回関東甲信越地区大会	生きてはたらく力が育つ家庭科の学習 ―自ら気づき考え実践する子をめざして―（被服、家族の生活と住居領域）	川越市立 大東西小
31	平成12	南部A地区 (北足立南部地区)	社会の変化に主体的に対応する豊かな心と実践力が育つ家庭科学習 ―自ら学び実生活に活かす力を育てる指導法の研究―（食物・家族の生活と住居領域）	草加市立 八幡小 八幡北小
32	平成13	秩父・北部地区 (大里地区)	主題：前年度に同じ ―生活を見つめ、考え、実践する子をめざして―（内容項目（3）、（5）を中心として）	深谷市立 上柴西小
33	平成14	南部B地区 (北足立北部地区)	主題：前年度に同じ ―家族とのかかわりを大切に、生活の自立を目指して実践する子―	上尾市立 上尾小
34	平成15	東部地区 (埼玉地区)	主題：前年度に同じ ―家族とのかかわりを大切に、生活の自立を目指して実践する子―	蓮田市立 黒浜西小
35	平成16	西部地区 (比企地区)	主題：前年度に同じ ―自分と家族のかかわりを大切に、自らの生活を創造する子―	嵐山町立 菅谷小
36	平成17	南部A地区 (旧北足立南部地区)	主題：前年度に同じ ―生活的な自立の基礎を培うために―	戸田市立 戸田南小
37	平成18	さいたま市	主題：前年度に同じ ―自分の生活の課題に気づき、よりよい家庭生活を目指して実践する子―	さいたま市立 文蔵小
38	平成19	秩父・北部地区 (秩父地区)	新しい時代を切り拓く豊かな心と実践力を育てる家庭科教育 ―食の大切さに気づき、進んで実践する子―	秩父市立 南小
39	平成20	南部B地区 (北足立北部地区)	未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育 ―手作りのよさに気づき、生活に活用できる子―	伊奈町立 小針北小
40	平成21	東部地区 (北埼玉地区)	主題：前年度に同じ ―身に付けた知識・技能を活用して課題を解決し、生活をよりよくしようと考え実践する子―	羽生市立 手子林小
41	平成22	西部地区 (入間地区)	主題：前年度に同じ ―よりよい食生活を探究し、実践していく子―	坂戸市立 浅羽野小
42	平成23	南部A地区 (北足立南部地区)	主題：前年度に同じ ―自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成―	新座市立 野火止小
43	平成24	東部地区(埼玉地区) 第29回関東甲信越地区大会	主題：前年度に同じ ―自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成―	春日部市立 武里西小
44	平成25	さいたま市	主題：前年度に同じ ―自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成―	さいたま市立 泰平小
45	平成26	秩父・北部地区 (児玉地区)	主題：自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成 ―快適な生活への関心を高め、着方・住まい方を考え、工夫する能力を育てる家庭科学習―	本庄市立 旭小

46	平成27	南部B地区 (北足立北部地区)	主題：前年度に同じ —食生活への関心を高め、環境に配慮した生活を工夫し、実践する力を育てる家庭科教育—	鴻巣市立 吹上小
47	平成28	西部・比企地区	主題：前年度に同じ —食生活への関心を高め、学び合いにより基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用する児童の育成—	ときがわ町立 明覚小
48	平成29	東部・北埼玉地区	主題：前年度に同じ —身近な消費生活と環境への関心を高め、関わり合い、学び合う中で主体的に生活を工夫する力を育てる家庭科学習—	行田市立 埼玉小
49	平成30	さいたま市	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —衣生活に関心をもち、学び合う中で身に付けた知識及び技能を活用して、主体的に生活を工夫する児童の育成—	さいたま市立 常盤北小
50	令和元	秩父・北部地区 (大里地区)	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —くまがやラグビー・オリパラプロジェクトで、生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童の育成—	熊谷市立 熊谷西小
51	令和2	南部A地区 (北足立南部地区)	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —家庭生活への関心を高め、人と関わりながらよりよい生活を創り出す児童の育成—	川口市立 戸塚南小
52	令和3	南部A地区(北足立南部地区) 第37回関東甲信越地区大会	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成—	新座市立 新堀小学校
53	令和4	西部・入間地区	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成—	坂戸市立 南小学校
54	令和5	東部・埼玉地区	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成—	久喜市立 栗橋南小
55	令和6	秩父・北部地区 (秩父地区)	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —生活の営みに係る見方・考え方を効果的にはたらかせる指導法の工夫—	秩父市立 影森小
56	令和7	さいたま市	主題：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 —学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成—	さいたま市立 与野本町小

5 地区別授業研究会

— 東部・加須市 —

- (1) 期日 令和7年12月10日(水)
- (2) 会場 加須市立三俣小学校
- (3) 研究主題「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成～」
- (4) 題材名「食べて元気！ごはんのみそ汁」
授業者 加須市立三俣小学校
教諭 東山 奈月
指導者 共栄大学
講師 小峯 由起子 先生
- (5) 研究主題について

本研究では、令和4年度に行われた学習指導要領実施状況調査結果から明らかになった課題の「『知識及び技能』の学習の本質を深く理解するための概念の習得」「五大栄養素の種類と働き」「食品の三つのグループ分け」について改善を図るために研究を行っていく。

「『知識及び技能』の学習の本質を深く理解するための概念の習得」については、5年「米飯のみそ汁」の学習において、みそ汁の実の取り合わせを通して概念の習得に迫りたい。「五大栄養素の種類と働き」「食品の三つのグループ分け」については、6年「1食分の献立」の学習において、自分の食生活を振り返り、問題を見だし、学習課題を考える活動を通して知識の定着を図りたい。

- (6) 研究内容
 - ①実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫
 - ②主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫
 - ③児童が学びを自覚し、成長を実感する評価の工夫
 - ④家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫

—西部・比企—

- (1) 期日 令和7年12月9日(火)
- (2) 会場 小川町立みどりが丘小学校
- (3) 研究主題
「学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成」
- (4) 題材名
「持続可能な社会のために」6年
授業者 小川町立みどりが丘小学校
教諭 藤田 亜矢子
指導者 深谷市立豊里小学校
校長 棚村 かおり 先生

- (5) 研究主題等について

家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する態度を養うために、実践的・体験的な活動を通して、主体的・対話的に学び実感を伴った理解とそれを活用できる学習過程を工夫することで研究主題に迫ろうと考えた。

本題材は、小学校学習指導要領内容C「消費生活・環境」(2)「環境に配慮した生活」を受けて設定したものである。小学校家庭科2年間のまとめとして、ABCそれぞれの領域で学習してきた内容を振り返っていく。そして、自分にできることや生活と環境の関係をSDG'sと結びつけて考えていく。そして、持続可能な社会を意識した課題の解決に向けて、自分らしく発信したり、今までを見つめなおして行動したりできる力を育む授業展開を予定している。

- (6) 研究内容
 - ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫
 - ②自己の伸びが実感できる多様な評価の工夫
 - ③生活の営みに係る見方・考え方を働かせる場面の工夫

—北部地区—

- (1) 期日 令和7年10月23日(木)
(2) 会場 本庄市立旭小学校
(3) 研究主題

「自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」

- (4) 題材名 5年「食べて元気に」
授業者 本庄市立旭小学校
教諭 梶山 まどか
指導者 熊谷市立妻沼西中学校
教頭 大山 方住 先生
(5) 研究主題について

本題材に関するアンケートを行ったところ、日本の伝統的な日常食である米飯とみそ汁を食べている児童は、半数を超えているものの、63%の児童がみそ汁を作った経験がないとのことだった。また、作ったことがある児童も「作り方はわからない。」「お湯に実と味噌をいれる。」という回答があり、だしについて触れた児童は1人のみであった。このことから、米飯とみそ汁の基本的な調理方法について、アンケートの結果を押さえた上で、オリジナルみそ汁作りの課題を設定し実践を通して解決させたい。そして、目的にあったみそ汁を、自らの手で調理することの良さを実感させることで、生活を楽しもうとする態度の育成を目指す。

(6) 研究内容

- ①主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業の工夫
- ②実践的な態度を育むことを重視した指導の工夫
- ③日常生活から問題を見出し課題を解決する指導の工夫
- ④基礎的・基本的な知識及びそれに関わる技能の定着

—南部地区—

- (1) 期日 令和7年12月2日(火)
(2) 会場 鴻巣市立下忍小学校
(3) 研究主題

「学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」

- (4) 題材名 「食べて元気に」
5年
授業者 教諭 渡邊 かな
指導者 鴻巣市教育委員会教育
部 学校支援課
指導主事
池田 祐輔 先生

(5) 研究主題設定等について

本題材は、小学校学習指導要領内容B(3)を受けて設定したものである。体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解し、栄養を考えて食事をとることの大切さがわかるようにさせたり、食品に含まれる栄養素の特徴により、三つのグループに分けることができることや、料理や職員を組み合わせると必要があることを理解させたりすることをねらいとする。

(6) 研究内容

- ①生活の営みに係る見方・考え方を効果的にはたらかせる指導法の工夫
- ②家庭や地域との連携を図りながら健康で安全な食生活を実践するための基礎を培う指導の工夫
- ③小・中のつながりを意識した学習指導の工夫

6 各部活動報告

〈研修部〉

研修部の主な活動は、「各研修会の計画・準備・運営」と「研究集録第56号(指定地区研究の部)の作成」である。

(1) 総会(第1回役員研修会)

①期日：令和7年6月6日(金)

②会場：Withyou さいたま

③内容：令和6年度事業報告・会計報告
令和7年度事業計画・予算案
講演会「これからの家庭科教育について」

講師：山崎 元美 指導主事
(県教育局市町村支援部義務教育指導課)

(2) 夏季研修会(第2回役員研修会)

①期日：令和7年8月8日(金)

②会場：Withyou さいたま

③内容：各部会の活動経過報告
指定地区研究発表会について
講演会「家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

講師：石川 万記子指導主事
(県立総合教育センター)

(3) 指定地区研究発表会

①期日：令和7年11月26日(水)

②会場：さいたま市立与野本町小学校

③公開授業：授業者 鈴木美来 教諭
6年「こんだてを工夫して」

紙面発表：授業者 青木翠 教諭

5年「ミシンで楽しくソーイング」

④記念講演

演題 「小学校家庭科における資質・能力の育成に向けて」

講師 文部科学省初等中等教育局
教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程
研究センター研究開発部
教育課程調査官
熊谷有紀子 先生

〈広報部〉

広報部では、1点目として、研究集録を発行すること。2点目としては、次年度に向けて役員名簿を作成すること。これらの活動を通し、埼玉県下における家庭科教育の充実と発展をたくさんの先生方と共有していく。

(1) 令和7年度研究集録第56号

前半部分は、さいたま市で実施される指定地区別授業発表の紀要となる。よって、11月の完成を目標に夏季研修で打ち合わせを行い、原稿収集、修正等を行った。製本は、他部署が担っているため、遺漏のないよう配慮しながら進めた。

〈打ち合わせ〉

8月8日 夏季研修にて

原稿依頼含む

9月末日 広報部原稿集約

校閲

10月初め 会長に原稿送付

最終確認・入稿

(2) 令和8年度 役員名簿

埼玉県小学校家庭科教育研究会役員のスムーズな連携と今後の家庭科教育のつながりを深めるためにも、各地区の協力を得ながら作成している。

昨今、DX化が進んでいる。そこで、家庭科教育のさらなる発展を目指し、本研究会でも活用と周知に努めるとともに、役員同士がつながり高め合える仲間となるよう、名簿作成も担っていきたいと考える。

さらに、本会ではホームページを作成しており、総会・研修会の告知や会議資料・研究集録の公開等を行っている。そこで、名簿作成にも有効活用し、異動された方が引き継ぎ等をしやすい環境づくりをしていく。

<調査研究部>

1 全国小学校家庭科教育研究会調査

今年度から、これまでのやり方を見直し、調査内容・方法を大幅に変更し、持続可能な調査を目指す。

(1) 調査内容 (予定)

児童・教員向けに実施するが、質問項目は厳選し、回答者の負担を軽減する。

- ・調査Ⅰ (児童向け)
家庭科学習及び家庭生活に関する調査
- ・調査Ⅱ : (教員向け)
家庭科の学習指導状況に関する調査

(2) 調査方法 (予定)

- ・調査Ⅰ : 県の実態に合わせて学校を抽出し、5・6年男女各100名以上
- ・調査Ⅱ : 県で家庭科を指導する教員10名以上を抽出

(3) 実施時期 (予定)

数年おきに実施し、調査と発表を交互に行う。

- ・案(1) R8 : 調査、R9 : 発表 ⇒ R10 : 調査、R11 : 発表
- ・案(2) R8 : 調査、R9 : 発表 R10 : 検証 ⇒ R11 : 調査

2 調査研究部会

(1) 第1回 6月6日 (金)

WithYou さいたま

- ・今後の活動計画

(2) 第2回 8月8日 (金)

WithYou さいたま

- ・調査方法の確認

<庶務部>

埼玉県小学校家庭科教育研究会における研修活動の充実・発展を期して計画の立案等を担当している。

各部と連携を図りながら、以下のような活動を行っている。

(1) 本部役員会・第1回役員研修会

(6月6日・With you さいたま)

講演「これからの家庭科教育について」

指導者：埼玉県教育局市町村支援部

義務教育指導課 山崎 元美指導主事

(2) 夏季研修会・各部研修会・専門委員会 第2回役員研修会

(8月8日・With you さいたま)

講演「家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

指導者：埼玉県立総合教育センター

石川 万記子指導主事

(3) 第56回埼玉県家庭科教育研究協議会

本年度の指定地区は、さいたま市で、11月26日、さいたま市立与野本町小学校を会場として実施予定である。

研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」～学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成～とし、実践研究を発表する。

※実施委員長と協力し、運営細案を作成する。

(4) 本部役員会・第3回役員研修会

※2月開催予定

※各会の集会許可申請、派遣依頼文書の作成・配付、運営細案の作成、当日の運営補助など

7 令和6年度 埼玉県発明創意くふう展 入賞作品

賞名	作品名	氏名	学校名	学年
埼玉県知事賞	車いすタイヤふき「楽らくん」	堀口 竜	長瀬町立長瀬第一小学校	5
埼玉県教育委員会 教育長賞	焦らなくても大丈夫	板垣 摘希	小川町立みどりが丘小学校	5
	お家 de ウォーキング	根岸 湊	深谷市立明戸小学校	6
埼玉県産業労働 部長賞	洗ったら置くだけ、水筒水切り セット	黒木 展成	富士見市立ふじみ野小学校	6
埼玉県発明協会 会長賞	一冊でも安心本棚	虻川 優花	川口市立根岸小学校	5
	トイレトペーパー出しすぎ防 止装置	齋藤 結依子	寄居町立寄居小学校	5
NHKさいたま放送局 長賞	つまようじ起立くん	浜崎 拓海	川口市立根岸小学校	6
埼玉新聞社賞	一目で分かる防災グッズ	石渡 結翔	久喜市立栗橋小学校	6
埼玉県商工会議所 連合会会長賞	バラバラしないくつ下ハンガー	飯田 蘭太	蕨市立中央小学校	5
埼玉県経営者協会会 長賞	安全を着る	新井 陽向	さいたま市立徳力小学校	6
埼玉県産業教育 振興会長賞	ゴムと本体が動かせるゴミ箱	亀田 夕季乃	鴻巣市立赤見台第一小学校	6
	歯ブラシ水キャッチ	井田 朋那	三芳町立上富小学校	5
	1人で3役 片手でOK	石川 陽也	白岡市立南小学校	6
埼玉県小学校家庭科 教育研究会長賞	楽～に 細切りローラー	上林 万啓	川口市立辻小学校	5
	重たいお米を軽々運ぶ米(マイ) バッグ	秋本 蒼空	さいたま市立大牧小学校	6
	ばんそうこう 貼るならこう	飯野 尋臣	川越市立今成小学校	6
	においなくなる くつそろえマシーン	青田 美陽	上里町立賀美小学校	2
	手を守るくん	松本 真央	行田市立北小学校	5
	お薬ポンポンらくキャッチ	杉山 蓮翔	蓮田市立平野小学校	5
	水筒らくらく運び	上田 英寿	幸手市立さかえ小学校	5
サンシュノクーラー	藪田 海人	さいたま市少年少女発明クラブ	6	
埼玉県工業教育 研究会長賞	片手でプッシュ	小池 妃星	さいたま市立泰平小学校	6
	わすれ物チェックミラー	富山 菜月	鴻巣市立下忍小学校	5
埼玉県発明協会特別賞	噴水タワー	阿久津 愛奏	入間市立西武小学校	4

8 令和7年度全国大会

第62回全国小学校家庭科教育研究大会
徳島大会

- ・会期 令和7年11月21日(金)
- ・会場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
- ・大会主題
「豊かな心と実践力を育み、
未来を拓く家庭科教育」
- ・徳島大会副主題
「自らよりよい生活を
創り出そうとする子供の育成」
- ・公開授業

第1会場：〈徳島市立八万小学校〉

第2会場：〈徳島市立佐古小学校〉

第1会場 公開授業

- 5年2組 生活を支えるお金と物
- 5年3組 生活を支えるお金と物
- 6年2組 地域の人に感謝の気持ちを伝えよう
- 6年3組 地域の人に感謝の気持ちを伝えよう

第2会場 公開授業

- 5年1組 食べて元気に、作ろう日本の伝統食
- 5年2組 食べて元気に、作ろう日本の伝統食
- 6年1組 思いを形に～目的に合った理想の
マイバッグを作ろう～
- 6年2組 思いを形に～目的に合った理想の
マイバッグを作ろう～

〈全国小学校家庭科教育研究大会の歩み〉

年度	回	開催県・市
元	26	東海北陸・愛知
2	27	中国四国
3	28	九州
5	30	北海道東北
6	31	近畿
7	32	関東甲信越・栃木
8	33	東北陸
9	34	中国・四国
10	35	九州
11	36	東京
12	37	北海道東北
13	38	近畿
14	39	関東甲信越・茨城
15	40	東海・北陸
16	41	中国四国・島根
17	42	九州・長崎
18	43	東京
19	44	北海道
20	45	大阪
21	46	新潟
22	47	福井

23	48	高知
24	49	佐賀
25	50	東京
26	51	秋田
27	52	和歌山
28	53	山梨
29	54	石川
30	55	岡山
元	56	熊本
2	57	東京〈誌上発表・映像配信〉
3	58	宮城〈映像配信〉
4	59	京都
5	60	神奈川
6	61	三重
7	62	徳島

※参考

〈関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会の歩み〉

年度	回	開催県・市	備考
元	7	千葉	
2	8	群馬	
3	9	新潟	
4	10	茨城	
5	11	神奈川	
6	12	山梨	
7	13	栃木	第32回全国大会
8	14	横浜	
9	15	長野	
10	16	千葉	
11	17	埼玉	
12	18	群馬	
13	19	新潟	
14	20	茨城	第39回全国大会
15	21	山梨	
16	22	栃木	
17	23	神奈川	
18	24	長野	
19	25	千葉	
21	26	新潟	第46回全国大会
22	27	横浜	
23	28	茨城	
24	29	埼玉	
26	30	群馬	
27	31	栃木	
28	32	山梨	第53回全国大会
29	33	長野	
30	34	千葉	
元	35	新潟	
2	36	茨城	〈誌上発表〉
3	37	埼玉	〈オンライン〉
4	38	群馬	〈オンライン〉
5	39	神奈川	
6	40	栃木	
7	41	山梨	

9 令和7年度埼玉県小学校家庭科教育研究会役員名簿

顧問		塚脇和子 松崎澄枝 根岸彩子 近藤三恵 木島千恵 吉泉幸枝 西田美枝子 関口享子 島村憲子 野本和子 山中伊久枝 佐藤順子 後田房枝 宮川みさ子 野口紀子 小川三代子 染谷和美 田中恵子 榑原 久子 池田智恵子 小峯由起子 長島淑子		
会長		井上 千春	川口・戸塚南小	
副会長		川村亜希子	草加・長栄小	
		関口 循子	富士見・関沢小	
		棚村かおり	深谷・豊里小	
		刑部 香織	加須・花咲北小	
		大島 恵美	さいたま・上小小	
監事		伊東よお子	川口・鳩ヶ谷小	
		小笠原泰代	東松山・青鳥小	
		原田 千恵	ときがわ・萩ヶ丘小	
		斎藤 和子	春日部・緑小	
		三ヶ尻陽子	幸手・権現堂川小	
		金子明日香	さいたま市・大砂土東小	
		落合 望	埼玉大附属小	
		渡邊さや香	埼玉大附属小	
		渡邊はるか	川口・上青木小	
幹事		高橋容史子	さいたま・上落合小	
		さいたま市	杉山さおり さいたま・岸町小	
南部	南部A	川口 常	池田 絢子 川口・戸塚北小	
		川口 常	古森 美希 川口・東本郷小	
		草加	江川 慶子 草加・西町小	
		蕨	下村 由香 蕨・北小	
		戸田 常	松島夢里有 戸田・戸田東小	
		朝霞	肥後 実沙 朝霞・朝霞五小	
		志木 常	神保 菜月 志木・宗岡第四小	
		新座	小島 桂子 新座・第四小	
	和光	土肥 治武 和光・広沢小		
	南部B	鴻巣	渋谷穂菜美 鴻巣・馬室小	
		北本	輿水 令子 北本・中丸小	
		上尾 常	千葉 隆一 上尾・今泉小	
		桶川	松尾 美樹 桶川・桶川東小	
		伊奈	七戸智恵子 伊奈・南小	
		西部	入間	川越
狭山				富田 陽子 狭山・入間川東小
所沢 常	和田香菜子 所沢・若松小			
飯能・名栗	高山 里佳 飯能・飯能第一小			
入間	蓮沼 裕美 入間・宮寺小			
日高 常	吉田 茉生 日高・高萩小			
坂戸	野口 晋平 坂戸・浅羽野小			
鶴ヶ島 常	吉野 淑恵 鶴ヶ島・鶴ヶ島第一小			
越生毛呂山	山田摩利子 毛呂山・川角小			
ふじみ野	山本 伸夫 ふじみ野・駒西小			
富士見	中根 涼 富士見・勝瀬小			
三芳 常	押切今日子 三芳・竹間沢小			
比企	東松山	小澤なづな 東松山・新明小		
	嵐山・滑川 常	森山やす子 嵐山・七郷小		
	小川・東秩父	寺山いつみ 小川・小川小		
	ときがわ・鳩山	西村 結和 鳩山・今宿小		
	川島	白瀬 奈々 川島・井草小		
吉見	恩田 美紀 吉見・南小			

秩父・北部	秩父	秩父 常	岸 寛子 秩父・吉田小
		小鹿野	吉岡 美沙 秩父・荒川西小
	児玉	本庄	田嶋 みよ 本庄・本庄東小
		上里 常	高須賀重理紗 美里・大沢小
		神川	森 真理 神川・丹荘小
大里	熊谷 常	町田 あき 熊谷・熊谷西小	
	熊谷	小野里彩水 熊谷・別府小	
	深谷	阿佐見菜穂子 深谷・幡羅小	
	深谷 常	北爪 杏奈 深谷・川本南小	
	寄居	常木 瑞穂 寄居・折原小	
東部	北埼玉	行田 常	荒井 美穂 行田・太田小
		羽生	金子 直美 羽生・東小
		加須	奥 知子 加須・原道小
	埼玉葛	春日部	田中 麻子 春日部・武里南小
		越谷	曾我 保夫 越谷・宮本小
		八潮 常	村山 聡美 八潮・八條北小
		蓮田	清水 智美 蓮田・黒浜南小
		久喜	平野 由衣 久喜・栗橋南小
		白岡 常	中村 朱里 白岡・南小
		宮代	森田 純子 宮代・笠原小
		幸手	猪瀬 詩乃 幸手・幸小
		杉戸 常	野本 文恵 杉戸・高野台小
		松伏	松岡 由子 松伏・松伏二小
		吉川	大久保有沙 吉川・三輪江小
		三郷	濱本乃々子 三郷・丹後小